

経 営 学 部

経営学科(経営コース)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71401 71402 71406 71407	数学Ⅰ 1・2 数学Ⅱ 1・2	営: 選・必	1	各2	前期 後期	春 藤 修 二 宮 元 忠 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 数学Ⅰ「線形代数学」(前期)
数学Ⅱ「微分法」(後期)

【講義内容】 数学Ⅰ「線形代数学」においては、連立1次方程式の解の性質と解法、固有値と固有ベクトル等も取扱う。
数学Ⅱ「微分法」においては、主に1変数関数の微分法の授業をする。

【講義計画】 数学を応用する立場に立って、基礎的概念、定理を分かりやすく説明する。
特に「微分法」においては出来るだけ定理の図形的意味を述べるようにする。
区切り毎に演習問題を取り上げ、理解を深めるようにしながら授業を勧める。

【評価方法】 筆記試験による。出席も考慮に入れる。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71411 71413	会計原理 1・2・3	営: 選・必	1	各4	通 年	藤 井 達 敬 高 橋 弘 一 斎 藤 孝 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 会計は、企業の経営活動を複式簿記の原理に従って情報化し、貸借対照表や損益計算書等の財務諸表によって報告するシステムである。会計情報の利用者には、経営者や管理者等の企業内部の利害関係者、債権者や投資家等の企業外部の利害関係者ばかりでなく、企画書を作成する社員や、顧客に自社製品の説明を行なう営業マンも含まれる。会計情報の理解なくしては、現代の企業活動を理解することはできないし、また、会計情報がどのように作成されるかを知らなければ、会計情報の正しい分析はできない。本講義では、以下の観点から会計の原理について学習する。

【講義計画】 1. 会計制度の社会的意義
2. 複式簿記の原理
3. 企業活動と諸取引
4. 財務諸表の構造
また、会計原理の講義を補足するために、11月中旬に簿記検定3級程度の統一テストを行なう。
このテストの可否は、直接会計原理の単位取得には影響を及ぼさないが、2年次以降の会計学の諸学科目を理解するためには、合格することが重要である。自習用テキストは適宜指示する。

【評価方法】 定期テスト、出席状況等を鑑み、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単位	期 間	担 当 者		
71421 }	経営学Ⅰ 1～4	営: 選・必	1	各2	前 期	藤井・高橋・岩城 他1名		
71424 }								
71426 }	経営学Ⅱ 1～4	営: 選・必	1	各2	後 期	藤原・湯本・薫・斎藤		
71429								
他の科目 との関連	経営学総論A・Bと同時履修することが望ましい。				他学科 履 修	不可	重 複 履 修	不可

【講義内容】 経営学部入学以降に必要とされる経営学の諸分野で使われる英語の文献の読解能力の基礎を養うことを目的として、アメリカにおける代表的な経営学の入門書である下記のテキストを講読する。授業は単なる英文和訳ではなく、英文の大意をパラグラフ毎に理解する速読方式で進められる。内容はビジネス及び経営の基礎的概念や制度の理解に重点を置き、経営理論についても言及する。

【講義計画】 具体的な講義計画については各教員毎に授業の最初の時間に示されるが、概ね経営学Ⅰと経営学Ⅱにおいては、それぞれテキストの以下のPARTを行う予定である。

経営学Ⅰ

1. THE AMERICAN BUSINESS SYSTEM
2. ORGANIZATION AND MANAGEMENT

経営学Ⅱ

1. THE TOOL OF MANAGEMENT
2. BUSINESS OPERATIONS
3. THE BUSINESS ENVIRONMENT: TODAY AND TOMORROW

【評価方法】 試験、レポート、授業参加度等の成績で評価するが、より具体的な評価方法については授業開始時に各教員が指示する。

【テキスト】 Wylie A. Walthall and Michael J. Wirth, GETTING INTO BUSINESS: An Introduction to Business (4th ed.), Harper & Row, 1987

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71432	統計学Ⅰ	営: 選・必	2	2	前 期	木 村 美 善
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修

【講義内容】 統計的方法はコンピュータの発達にともない、様々な分野で活発に用いられるようになっている。この講義では統計学の基本的概念と手法について解説し、それらがどのように応用されるのかを考察する。論理的厳密性よりも直観的理解に重点をおき、統計的なものの見方・考え方を身近な例を用いてわかりやすく説明する。

【講義計画】

1. 統計と社会
2. 平均値と分散
3. 度数分布
4. 確率
5. 確率変数と確率分布
6. 主な確率分布

【評価方法】 リポート20%、試験80%の割合で評価する。

【テキスト】 宮川公男著『基本統計学』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71437	統計学Ⅱ	営: 選・必	2	2	後期	木 村 美 善
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「経営統計学Ⅰ」の学習を前提とし、標本に基づく推測統計学についてわかりやすく解説する。推測統計学の基礎理論と手法およびその応用について理解することが目的である。

【講義計画】

1. 標本分布
2. 推定
3. 検定
4. 回帰と相関の分布
5. 回帰の推測統計理論

【評価方法】 リポート20%、試験80%の割合で評価する。

【テキスト】 宮川公男著『基本統計学』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71441 71446	経済原論Ⅰ・Ⅱ	営: 選・必	2	各2	前期 後期	多 和 田 眞
他の科目 との関連	国際経済学・財政学・金融論等、経済学関係の科目を履修するための前提科目			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ミクロおよびマクロの基礎理論

【講義内容】 本講義は経済関係の専門科目を学ぶうえで必要となる経済学の基礎理論の習得を目的とするもので、前半は個々の経済主体の行動や市場のメカニズムに焦点をあてたミクロ経済論を扱い、後半は一国全体の経済のメカニズムと経済政策を内容とするマクロ経済理論をとりあげる。

【講義計画】 以下の順で講義を進める。

前期

- ①消費者行動の理論
- ②企業行動の理論
- ③市場の均衡とその意味
- ④市場の失敗
- ⑤国際貿易の理論

後期

- ①国民所得の決定
- ②貨幣の需要と供給
- ③財政・金融政策
- ④失業とインフレーション
- ⑤国際マクロ経済理論

【評価方法】 授業中に行う小テスト、前期終了時のレポート、および期末テストの総合評価による。

【テキスト】 多和田 眞編著『経済学講義』（中央経済社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71451	外書講読 1	営: 選・必	2	2	前期	飯 原 慶 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 金融市場入門

【講義内容】 金融資産の内容、金融資産の経済的機能、金融資産価格決定の一般原則、金融資産と実物資産の相違、金融派生商品の役割、金融市場の経済的機能などについて学ぶ。株式、債券、預金といった金融資産について学ぶための基本的な知識を中心に学習する。米国の制度が中心になるが、基本的なところでは日本と同じであるので、日本の制度の理解にも役立つものと思う。日米の制度の相違についても随時とりあげて検討する。テキストは最近の金融市場の変化について鋭い分析を行っており、今後の金融市場のあり方について学ぶところが多い。

【講義計画】 外書講読という科目の性質上、英語を日本語に訳すことになるが、逐語訳ではなく、内容の把握に重点を置くようにしたい。現代社会にとって、株式や債券がどのような意味を持つのか。先物やオプションといった派生商品はどのような経済的機能をもち、何故これらの商品が急速に発達してきたのか。金融商品の発達には企業経営にどのような影響をもつのかについて基本的な考え方をつかんでもらいたい。あらかじめテキストを読んできてもらおう。授業では適宜、指名して報告を行ってもらう。

【評価方法】 授業への出席状況、授業での報告、中間テスト、期末テストを総合して評価する。5月下旬に中間テストを行なう。

【テキスト】 Frank J.Fabozzi, "Investment Management", Prentice-Hall, 1995.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71452	外書講読2	営: 選・必	2	2	前期	大 津 誠
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 経営組織論

【講義内容】 アメリカの大学で使用される経営組織論の教科書を講読する。経営組織論は組織の中の人間行動を扱う組織行動論（Organizational Behavior）と組織自体を扱う組織理論（Organization Theory）から成り立っているが、本クラスは前者を対象とする。主なトピックは以下の通りである。
1. 管理者行動と部下の職務遂行、2. 個人の基本的特性、3. 動機づけ理論、4. 強化理論、5. 職務設計、6. 目標設定

【講義計画】 上記のトピック順番にそれぞれ2～3回かけて講読する。毎回10名程度の学生を指名して担当部分の要約をしてもらう。

【評価方法】 出席 20%
中間テスト（2回）40%
定期試験 40%
100%

【テキスト】 John Schermerhorn, James Hunt, Richard Osborn, *Managing Organizational Behavior* (4th ed.), John Wiley & Sons, 1991.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71453	外書講読3	営: 選・必	2	2	前期	薫 祥 哲
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 環境資源の利用や保護に関する幾つかのトピックを、経済学的な見地から考えてみる。テキストは、色々な環境問題を個々の章で簡潔に述べている入門書である。数学はあまり使われておらず、グラフに基づいた表示と、文章による論説が中心なので、これらの問題に関する、経済学的な考え方の習得を重視する。

【講義計画】 個々の学生に、割り当てられたページの内容を説明してもらおうが、クラスでのディスカッション

では全員参加を前提とするので、全員がテキストを読むこと。

【評価方法】 授業出席、小テスト及び、前期定期試験

【テキスト】 P.K.Turner, D.Pearce, and I.Bateman, 1994, *Environmental Economics: An Elementary Introduction*, Harvester Wheatsheaf, New York.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71454	外書講読 4	営: 選・必	2	2	前期	斎 藤 孝 一
他の科目との関連	会計科目を履修することが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 本講読は、アンソニー等による管理会計の古典*Fundamentals of Management Accounting*を講読することによって、管理会計を理解することを目的としている。受講生は、口頭での報告、質疑応答、レポート作成等を通して、管理会計に対する問題意識を高め、管理会計の概念を習得するよう期待する。

【講義計画】 本書は、次のような内容からなっているが、適宜必要箇所を取り上げる予定である。
 1. The Nature and Management of Accounting 2. An Introduction to Cost Behavior
 3. Cost-Volume-Profit Relationships 4. Full Cost Information and Its Uses
 5. Product Costing Systems 6. Production Overhead Costs
 7. Additional Aspects of Cost Accounting 8. Standard Cost Systems
 9. Production Cost Variances 10. Differential Accounting
 11. Techniques for More Complex Alternative Choice Decisions
 12. Long-Run Decisions
 13. Additional Aspect of Capital Investment Decisions
 14. The Management Control Structure 15. The Management Control Process
 16. Programming and Budgeting 17. Control Reports and Their Use
 18. Evaluation of Performance 19. Management Accounting System Design

【評価方法】 出席率、授業態度等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 R.N.Anthony, G.A.Welsch, J.S.Reece, *Fundamentals of Management Accounting*, 4th Edition, 1985, Irwin
 ただし、大著であるので、適宜資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71455	外書講読 5	営: 選・必	2	2	前期	岩 城 秀 樹
他の科目との関連	統計学・情報リテラシーを履修していることが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 経営学学科生のためのデータ分析入門

【講義内容】 下記テキストを用いて統計学とデータ処理の初歩について講義と問題演習を行なう。なお、問題演習については時系列解析用ソフトTSPを用いてパソコンで分析処理を行う予定である。

【講義計画】 はじめてTSPの基本操作を習得するためにテキスト(1)の2章、3章について解説を行う。続いてデータの統計処理の基本的手法についてテキスト(2)を用いて解説し、テキストの演習問題の解答をTSPを用いて受講生に作成してもらう。

【評価方法】 学期末に課すレポートによって評価する。
 (1)Hall,B.H. "TSP User's Guide ver. 4.2", TSP International (1994).
 (2)Rees,D.G. "Essential Statistics 3rd.", Chapman and Hall (1995).

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71461 └ 71465	基礎演習 1～5	営: 選・必	2	各2	後 期	湯 本 祐 司 成 生 達 彦 飯 原 慶 雄 高 橋 弘 一 藤 原 道 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 3・4年次で演習Ⅰ・Ⅱおよび卒業論文を履修し、各自の専門領域を確立することになるが、その準備として開設されている。経営学科の4コア制（組織・財務・マーケティング・会計）の各コアから1人ないし2人の担当者が基礎演習を担当している。将来の専門領域についてのおよその体系、基本的知識の習得を目的としている。

【講義計画】 具体的な講義計画については各教員毎に授業の最初の時間に示される。

【評価方法】 試験、レポート、授業参加度の成績により評価される。

【テキスト】 適宜指示する。

※本年度、履修を希望する学生は5月頃に実施する予備登録ガイダンスに必ず出席すること（詳細は後日掲示）
又、3月の登録時には仮登録コード（71999）を登録すること。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71471	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通 年	藤 井 達 敬
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 財務会計論

【講義内容】 前期では、2年次までに学んできた経営学総論、会計原理等で習得した知識を総合的に復習することに努め、現代社会における企業の役割、機能から始めて、企業活動の諸側面に焦点をあてて理解を深める。
後期では、前期で学んだ知識を基礎に会計学の中でも会計原則論とよばれる領域に焦点をあわせて勉強する。特に日本の会計原則の形成に大きな影響を与えたアメリカの会計原則の形成過程から始めて、日本における会計原則の形成過程について勉強する。
なお、年間を通じてサブゼミナールを実施し、そこでは会計関連法規にもとづいた財務諸表の作成演習を行う。

【講義計画】 前期では松田修一著、『会社の読み方入門』日本経済新聞社をテキストに、1. 会社の設立、2. 会社の組織、3. 会社の経営手法、4. トップマネジメントの機能について学ぶとともに、企業会計制度が会社でどのように運用されているかを学ぶ。
後期ではM.Moonitz著“Obtaining Agreement on Standards in Accounting Profession”AAAをテキストにアメリカにおける企業会計原則の形成過程に関する購読会を行う。その中で、日本における企業会計原則の形成過程についても学習する。
年間を通じて行うサブゼミでは財務諸表規則、計算書類規則、企業会計原則等の会計関連法規にもとづいて、財務諸表の作成演習を練習問題を解く形式で訓練する。

【評価方法】 演習ではサブゼミも含めて出席を重視し、レポートの提出で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71472	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通 年	藤 原 道 夫
他の科目 との関連	経営労務論、労使関係論、仕事の経済学、データ解析			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「経営戦略と人事労務管理」

【講義内容】 企業についての基礎知識と経営労務についての基礎知識をまとめた後にテーマに沿って勉強していきます。

資料を探索したり、レポートを書くのを課題にする他に、必要に応じて口頭での発表をしてもらいます。
秋学期には、各自のテーマを決定して卒業論文の準備に入っていきます。ゼミ生は、時間割の上で可能ならば、私の担当するデータ解析を受講するようにして下さい。

【評価方法】 レポート、ゼミへの参加度などにより総合的に評価します。

【テキスト】 日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』
津田真澄編著『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）
伊丹・加護野・伊藤編『人的資源』（リーディングス 日本の企業システム第3巻 有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71473	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通 年	飯 原 慶 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代企業の経営戦略

【講義内容】 現代企業の経営戦略を新聞紙、週刊誌等の記事を中心に分析する。業種別、地域別、あるいは会社別に、各自が研究する分野を設定し、その分野の企業の動向について、新聞紙、週刊誌等から情報を収集し、それを基礎に分析を行ってもらう。毎週、その一週間の間に新聞紙に現れた記事を集めて報告してもらう。他方、それらの現象を理解するための基礎的考え方の整備、基礎資料の収集を行って、それらを基礎に卒業論文を作成してもらう。

【講義計画】 4月中に自分の研究する分野を決定してもらう。5月以降毎週その一週間に集めた記事の要約を提出し、それを基礎に議論してもらう。夏休み中に、分析のフレームワークを作るのに必要な知識を整理するため、数冊の図書を合宿を通して勉強する。後期は記事の収集とともに、その分析により重点をおいた報告を行ってもらう。

【評価方法】 毎回の報告と学期末のレポートを総合的に評価する。

【テキスト】 日本経済新聞、日経産業新聞、日経金融新聞

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71474	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通 年	山 田 進
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 このゼミでは以下のことをゼミの運営方針とするので、必然的にパソコンの利用が中心となる。従って、この主旨に同意したもののみに参加してもらいたい。

- (1)研究対象領域：「経営管理と情報システム」の周辺に関する事柄の学習と自主研究
- (2)指導形態：4年次卒論指導はインターネットを利用したオンラインゼミによる個別指導
- (3)学習内容と指導要領：
 - a. 3年次における「経営情報論」の履修は絶対条件である。

- b. 3 年次前期はインターネットを含む各種パソコン操作を指導するので、それに習熟すること。
3 年次後期は各種関連論文を読んでのレポートの作成指導をする。4 年次では、各自テーマを決めて卒業研究をおこない、卒業論文を作成し、かつそれをゼミ内で発表する。
- c. パソコンの所有は絶対条件ではないが、(d) に有るように頻繁にパソコンを使用することになるので、各自所有が望ましい。パソコンを所有していない場合は、大学の施設を使用すること。
- d. 私は非常勤講師なので常時大学には居ない。そこで 3 年次後半から 4 年次でのゼミ指導や卒論指導は、授業形式も行うが、インターネットを利用しての個別指導を中心にする。
- e. 卒論の合格の条件は、所定の卒論の提出と、ゼミ内卒論発表会の実施を条件とする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71475	経営演習 I	営: 選・必	3	4	後期	加 藤 清
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 コーポレートガバナンスと資本市場

【講義内容】 日本企業を取りまく国内外の構造的変化は、企業収益ばかりでなく、日本的経営と言われる企業のあり方そのものを、根本から問い直そうとしている。メインバンク制度等に見られる日本独特の企業間の関係や、終身雇用や従業員組合などといった仕組みは、国内的には好ましいものと写ったとしても、国際社会のなかでの日本の企業を考えると、必ずしも最適なものであるとは限らない。様々な利害関係を有するグループがお互いの利権を主張する場が企業であるとなると、明示的なものであるなしに関わらず、グループ間で結ばれる契約条項が非常に重要になってくる。どのようなルールを今後採り入れ、そしてどのルールを捨て去るべきか？現状の認識から始めて、日本とアメリカの企業について比較検討を行っていく。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 『日本の金融市場とコーポレートガバナンス』（中央経済社、1993）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71476	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通年	成 生 達 彦
他の科目との関連	数学・統計学および経済原論を履修していることが望ましい。またマーケティング論・流通論および企業論の履修を推薦する。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 マーケティング論

【講義内容】 教科書的な経済理論が想定する“完全競争モデル”においては、企業のマーケティング活動や流通は大きな意味を持ち得ない。そこでは競争的な市場において、各経済主体が完全な情報を持ち、それゆえ取引費用が無視できるものと想定されている。これらの仮定によって、流通が架橋すべき生産と消費との間の懸隔はとるに足らないものとなっている。他面、現実のマーケティング・流通環境は“完全競争モデル”の諸前提を充たしているわけではない。実際、興味ある(現実の)マーケティング・流通現象を解明するためには、不確実性や情報の不完全性、独占や寡占等の不完全競争の要素、輸送や在庫をはじめとするさまざまな取引費用などに関する理解が不可欠である。このような観点からゼミでは、最近のミクロ経済理論の発展を踏まえて、さまざまなマーケティング・流通現象について検討する。

【講義計画】 演習はマーケティング・流通についての理解を深めるための 2 年計画の授業であり、最終目的は卒業論文の作成である。1 年目は基礎理論を勉強する。事前に配布されたテキストを 1 人の学生が報告するが、報告者以外の人も要約や疑問点等のレポート(レポート用紙 1 枚程度)を作成しなければならない。さらに演習 2 の登録の前提条件として、卒論の題材についての基礎研究レポート(400 字詰め原稿用紙 50 枚程度)を提出しなければならない。4 年次生は、自らの研究の進展状況を適宜報告する。

【評価方法】 ゼミへの出席(積極的な発言)、報告内容および毎週提出するレポートの内容、さらには定期試験(レポート)を総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じて配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71477	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通 年	高 橋 弘 一
他の科目との関連	登録を希望する学生は、2年次までに、会計原理、財務会計論、および簿記論の3科目の履修を終えていることが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 会計理論および企業のディスクロージャー制度の研究

【講義内容】 本演習の課題は次の2つである。
 1. 財務会計の理論と制度に関する学習および研究
 2. 有価証券報告書を用いたわが国大企業の経営分析

【講義計画】 上記課題1に関しては、適宜論題を選定し、順次、報告担当者を指名する。報告担当者には報告用のレジュメの作成・配布が、他の学生にはレポートの提出が求められる。論題を例示すれば、次の通りである。
 ・財産法と損益法
 ・動態論と静態論
 ・発生主義会計の理論構造と資産評価
 ・商法上の「公正なる会計慣行」と「企業会計原則」
 ・継続性の原則の意義と会計処理の原則および手続きの変更
 ・低価法の論理と同法における時価の意義
 ・負債概念と条件付債務
 ・当期業績主義・包括主義と「企業会計原則」の損益計算書
 課題2に関しては、下記のテキスト②を参考に、各自選定した東京証券取引所第1部上場会社（数社の比較を含む）について、財務諸表分析を中心に、有価証券報告書（本学図書館所蔵）を用いた経営分析を試みてもらう。この第2の課題は、主として各自の自主研究に委ね、分析結果については、10月に実施予定の合宿（1995年度は10月28日（土）～29日（日）に実施）で報告してもらう予定。

【評価方法】 報告の際のプレゼンテーション、質疑応答、レポート等を総合的に評価する。ゼミ合宿その他、ゼミ行事の企画・運営への貢献も、評価の対象に含める。

【テキスト】 ①中村 忠『新版財務諸表論セミナー』（白桃書房）
 ②吉村光威編著『入門 有価証券報告書の読み方』（日本経済新聞社）
 ③中央経済社編『会計法規集』（中央経済社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71478	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通 年	斎 藤 孝 一
他の科目との関連	会計科目を履修することが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 管理会計論

【講義内容】 本年度は、会計情報の有用性についての分析を取り上げる。受講生は、演習問題の解答、質疑応答、レポート作成等を通して、管理会計に対する問題意識を高め、基本的技法を習得するよう期待する。本演習は、以下に示すような内容からなっている。

【講義計画】 演習は、次のような内容を取り上げる予定であるが必要に応じパソコンを使用したい。
 1. 会計データの分析方法
 1. アンケート調査の分析方法
 1. 有価証券報告書の分析

【評価方法】 出席率、授業態度等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71479	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通 年	薫 祥 哲
他の科目との関連	経済原論・経営統計学・そしてデータ解析を履修していることが望ましい。			他学科履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「環境便益評価論」

【講義内容】 環境資源管理、あるいは環境改善政策が広く議論される様になったが、これらの政策がどの程度の便益を一般消費者にもたらすかを、客観的に分析しようという試みは、日本ではあまり進んでいない。その主な利用は、水資源や大気の質の改善、あるいは動植物の保護問題に見られる様に、消費者が大切だと見なす環境資源を直接扱うマーケットが存在しないところにある。したがって、環境財からの便益は、多くの場合、マーケットがもたらす均衡価格や均衡消費量の情報なしに行わなければならない。

アメリカおよびヨーロッパでは、色々な非市場評価方を用いて、環境財からの便益が測定されている。その例としては、

- 1) 仮想的市場法 (Contingent Valuation Method)
- 2) トラベル・コスト法 (Travel Cost Method)
- 3) ヘドニック価格評価法 (Hedonic Valuation Method)

等があげられる。

このゼミでは、ミクロ経済学及び厚生経済学に基づき、環境便益の定義と測定法、そして、その実施例を検討する。多くはアメリカの文献を使用する。環境便益測定例を討議する上で、一般的な統計及び計量経済学の知識を持っていることが望ましい。

【講義計画】 講義と、レポート報告の両方で進めて行く。クラスでのディスカッションでは全員参加を前提とする。

【評価方法】 ゼミでの発表と、レポート内容の評価。

【テキスト】 テキスト：
 1) J. B. Braden and C. D. Kolstad(eds.), 1991, *Measuring the Demand for Environmental Quality*, NorthHolland.
 2) A. M. Freeman, 1993, *The Measurement of Environmental and Resource Values: Theory and Methods*, Johns Hopkins University Press.
 3) 嘉田良平監訳『環境評価の経済学』（多賀出版、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71480	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通 年	村 本 正 生
他の科目との関連				他学科履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 マルチメディア社会と企業

【講義内容】 最近では、マルチメディア、インターネットの記事が新聞に出ていない日はないと言ってもよい。マルチメディアとかインターネットは一過性のものなのか、それとも定着した技術となるのであろうか。可能な限りこのような先端分野の真の姿を捕らえ、また、実際の利用を通して情報を収集し、これからの企業のあり方を探って行きたい。進歩の速い分野であり、何よりも、やる気と旺盛な好奇心が必要である。

【講義計画】 まずは最近の情報処理技術について概観し、基礎知識を学んだあと、できるだけ早い時期に研究するテーマを決定して1週間で学習したことを発表してもらい、議論を進めていきたい。授業時間以外にも計算機を利用して情報を収集解析することも必要になる。

【評価方法】 レポート、試験、発表、ゼミへの参加度など総合的に判断する。

【テキスト】 開講時に受講生の皆さんと相談の上決定したい。テキスト、新聞、雑誌を多数読むことになる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71501 71505	経営学総論 A 1・B 1	営: 選・A	1	各2	前期 後期	飯 原 慶 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経営学総論 A ― 現代企業と管理思想の流れ
経営学総論 B ― 現代企業の経営活動

【講義内容】 経営学総論 A
現代の大企業がどのような経過を通して生成発展してきたか。また、現在、どのような形態をとっているのか。そこでは、どのような管理思想によって企業経営が行われてきたのかについて講義する。

経営学総論 B
現代企業の経営活動を経営組織、経営戦略、計画とコントロール、経営の国際化の面から考えていくための基礎的知識を中心に講義する。

【講義計画】 経営学総論 A (1項目を2週間にわたって講義する)
(1)経営学の方法と系譜。(2)企業組織の成立と企業形態。
(3)経営者の職能。(4)企業と環境。(5)経営意思決定と情報
(6)マネジメント思想の流れ

経営学総論 B (1項目を2週間にわたって講義する)
(1)経営組織の論理 (2)経営組織の発展。(3)競争戦略
(4)事業構造戦略 (5)経営計画 (6)国際化戦略。

【評価方法】 学期末テスト、小テスト、レポートを総合的に評価する。小テストは前期、後期、それぞれ2回ずつ行なう。レポートは前期、後期それぞれ2回程度課題を出す。

【テキスト】 村松司叙『現代経営学総論』（中央経済社）〔前期・後期共通〕

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71502 71506	経営学総論 A 2・B 2	営: 選・A	2～4	各2	前期 後期	岸 田 民 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「経営と環境適応」

【講義内容】 経営とは、変化する環境における、問題解決過程である。まず、経営学説の発展に伴って、この問題解決過程のあり方が、技術的効率を求めるものから、人間の相互作用を考慮するものへと、さらには、環境状況との関連で、効果的な組織を問題にするものへと、変わってきた。こうして、環境と組織との適合が、その企業を高業績へと導くことが明らかにされた。すなわち、企業は、第1に環境に適合した組織をデザインすることにより、そして第2に環境操作戦略によって、不確実性・依存性を処理して、環境に適応するのである。

【講義計画】 以上の内容を理解するために
(1)経営学説の発展を、合理的モデル――自然体系モデル、Closed System Model－Open Systems Modelの軸に沿って分類する。
(2)環境を3つのレベル（内部環境、特定環境、全般環境）に分類し、第1に技術・規模と組織構造の関連を明らかにし、第2に課業環境と分化・統合（組織過程）の関連を示し、第3にこの2つの環境が組織デザインに与える影響を考える。
(3)最後に、環境操作戦略を、緩衝戦略、自律的戦略、協調的戦略に分けて、これを説明する。組織デザインと環境操作戦略とを使用することにより、企業は効果的にその環境に対処する。

【評価方法】 前期は各自の問題意識に基づいて、任意のテーマでレポートを作成してもらう。後期は、指定されたテーマについて一問、通常の試験と同じように問題を予め指定しないものを二問提出し、講義の全体についての理解度をチェックする。

【テキスト】 岸田民樹『経営組織と環境適応』（三嶺書、1985）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71515 71521	経営労務論A 1・B	営: 選・A	2～4	各2	前期 後期	藤 原 道 夫
他の科目 との関連	経営学総論A・B、経営組織論A・B、組織心理学A・B			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「構造変動期の経営労務」

【講義内容】 経営労務論は経営（体）内部におけるヒトの問題を取り扱う学問領域である。採用から始まり、能力開発、配置・異動・考課・処遇（昇進昇格、昇給・ボーナス）などに関わっている。同時に、経営組織や経営管理の側面を考慮しないと経営労務論は他の経営学の諸部門と同様に現実世界に対する「政策提言」能力を失う危険性が高い。

この講義では「ヒトが経営（体）の内部で働くことに関わる諸問題」を理解できるように経営労務を解説していく。講義は経営管理・経営組織・行動科学の基本概念をおさえ、戦後の日本の経営発展を概括する。その後各論を展開していくこととする。各論の展開に当たっては、各論を理解する上でキーになる分析概念について確認していく予定である。

【講義計画】

1. 経営労務論の対象領域
2. 動機づけとリーダーシップ
3. 経営管理と経営組織
4. 戦後日本の経営労務の展開
5. 人材の流れ——採用・育成・配置——
6. 人材の処遇——給与・昇格・評価——
7. 人材への動機付け——職場管理・参加——
8. 経済構造の変化と経営労務

【評価方法】 試験80％、レポート20％

【テキスト】 津田眞澄編著『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71531 71535	マーケティング論A・B	営: 選・A	2～4	各2	前期 後期	中 田 善 啓
他の科目 との関連	企業戦略や経営戦略に関する科目の前提科目			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 企業のマーケティング戦略

【講義内容】 企業がを行っているマーケティング戦略を体系的に説明する。マーケティングは市場を形成することによって、企業内、企業間、企業と消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして、需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル、製品、価格、販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。さらに、マーケティング戦略が企業間の競争にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。また、マーケティング活動の新しい動きについても触れる。

【講義計画】 上述の目標に向けて講義計画は次の通りである。

1. マーケティングとは何か
2. マーケティングと取引
3. マーケティング戦略と競争
4. マーケティング・チャネル戦略
5. チャネル戦略と競争
6. 製品戦略
7. ブランド戦略
8. 製品開発と戦略的提携
9. グローバル化

このような授業を通じて何よりもまず積極的に企業活動、経営問題、企業と社会・環境問題に関心をもつと同時に、明確な問題意識をもち、それを解明する手がかりを与えたい。

【評価方法】 筆記試験。できる限り出席することを強く希望する。

【テキスト】 中田善啓著『マーケティング戦略と競争』（同文館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71543	経営倫理	営： 選・B	2～4	2	後 期	P. LaForge
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71545 71547	経営環境論 A・B	営： 選・B	2～4	各2	前 期 後 期	薫 祥 哲
他の科目 との関連	経済原論を履修している事が望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ミクロ経済理論に基づいて、環境資源の効率的な利用を考える。この場合、資源の最適利用は、その便益と費用の差（純便益）の最大化を意味する。環境資源管理に関する、政策手段とその効率性、そして環境改善がもたらす、経済的便益を検討する。環境資源管理と政策の必要性は、多くの場合、その資源の所有権の不明確さと、生産活動がもたらす外部不経済効果から生じている。実際の環境資源経営を決めていく上での、経済理論及び費用便益分析がなしうる役割と、その限界を検討する。

【講義計画】 講義では以下のトピックスを扱う。
 1)汚染物による外部不経済効果
 2)再生可能資源と枯渇性資源の最適利用
 3)異世代間における資源配分ルールと、割引率
 4)資源配分上のパレート最適条件
 5)公共財としての環境資源管理
 6)汚染物排出規制：排出課税とスタンダード設定
 7)売買可能な汚染物排出権（Marketable Permits）
 8)環境便益の非市場評価法
 9)環境財の使用価値、存在価値、オプション価値
 10)環境リスク管理

【評価方法】 レポートと、定期試験

【テキスト】 T.H.Tietenberg, *Environmental and Natural Resource Economics*, third edition, Harper Collins Publishers, Inc., New York, 1992.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71551 71556	経営財務論 A・B	営： 選・A	2～4	各2	前 期 後 期	飯 原 慶 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営財務論 A ― 資本の運用
 経済財務論 B ― 資本の調達
 企業の資金の運用と調達に関する基本的な考え方、制度の詳細について説明する。

【講義計画】 1. 経済財務とは何か
 2. 財務諸とキャッシュ・フロー
 3. 正味現在価値とは何か

4. 正味現在価値の計算法
 5. 債券と株式の評価
 6. 種々の投資基準
 7. 資本予算
 8. 実際への応用
 9. 資本市場理論
 10. リスクとリターン (CAPM)
 11. リスクとリターン (ATP)
 12. リスクと資本予算
- (以上前期)
13. 効率的資本市場と企業の資金調達
 14. 長期資本調達——概観——
 15. 資本構成：基本原則
 16. 負債の制約条件
 17. 資本構成と企業価値
 18. 配当政策
 19. 増資
 20. 長期負債
 21. オプション
 22. ワラント債と転換社債
 23. リース
 24. リスク・ヘッジ
- (以上後期)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71601 71603	経営史 A・B	営： 選・A	2～4	各2	前期 後期	粕 谷 誠
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 現在の日本は世界でも有数の“経済大国”となり、日本企業の有している“強さ”は、いわゆる“日本的経営”として世界中の注目を集めるに至っている。しかし19世紀中葉に開港したときの日本は、極東の“遅れた”一小国に過ぎなかったのである。日本企業はいかなる条件のもとに独自の発展をとげていったのかについて講義を行なう。

【講義計画】 本講義はこうした素朴な疑問に対して一定の見通しを与えることを主たる目的としている。その際には、イギリス、アメリカの事例を参照しつつ、江戸時代に日本経済が“自律的”に発展させていた諸制度と、明治以降に海外から“移植”された諸制度との“接合”のあり方に注目していきたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71605 71607	経営管理総論 A・B	営： 選・A	2～4	各2	前期 後期	岸 田 民 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「組織の生成と革新のマネジメント」

【講義内容】 経営管理とは、組織における問題解決過程であり、いかに人間活動を調整し、環境に適応していくかという問題である。本年は、人間の活動が如何にして、組織化された活動へと組み上げられていくかという問題意識の下に、組織生成 (Organizing) の議論をさまざまな角度から紹介し、さらにそれが革新へと至るプロセスを、あいまい性→多義性の把持・除去→不確実性の吸収による一義化 (多元的適合) という軸に沿って分析する。

【講義計画】 以上の内容を理解するために、
 (1)組織論の歴史と分類の枠組 (合理的モデル——自然体系モデル、Closed System Approach-Open System Approach) を明確にし、
 (2)現代のさまざまな組織形態 (事業部制組織、持株会社、ネットワーク組織、ピア・グループ、リゾーム、ホロン、曼荼羅、フラクタル) を識別し、その事例を紹介すると共に、

- (3)GM社、デュボン社の事業部制への組織革新、日本鋼管・八幡のB O Fの導入、3 M社のポスト・イットの開発などの事例をとり上げて、革新のプロセスを分析し、
(4)組織の生成・発展を、Organizaing→Organized.のサイクルの繰り返しによる組織革新のプロセスであるという考え方を明らかにする。

【評価方法】 前期は各自の問題意識に基づいて、任意のテーマでレポートを作成してもらう。後期は、指定されたテーマについて一問、通常の試験と同じように問題を予め指定しないものを二問提出し、講義の全体についての理解度をチェックする。

【テキスト】 岸田民樹『経営組織と環境適応』（三嶺書房、1985）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71621 71623	流通論 A・B	営： 選・A	2～4	各2	前 期 後 期	成 生 達 彦
他の科目との関連	数学・経済原論を履修していることが望ましい。またマーケティング論及び企業論の履修を推薦する。			他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 流通の経済分析

【講義内容】 流通現象をミクロ経済理論のフレームワークを用いて検討する。前期には、流通の役割を情報（伝達）機能を中心に説明するとともに、専売店制、再販制、テリトリー制さらには返品制等の流通系列化について検討する。後期は、企業間の競争関係を踏まえつつ戦略的行動を論じるとともに、日本の流通システムを経済的合理性の観点から評価する。

【講義計画】 隔週2コマ連続の講義で、マーケティング論との同時履修ができる。テキストは14章あり、1回の講義で1章進む予定。分かりやすく説明するつもりではあるが、内容的には難しいため、十分な予習が必要である。

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 テキスト：成生達彦『流通の経済理論』（名古屋大学出版会）
参考書：丸山雅祥『日本市場の競争分析』（創文社）
有賀 健『日本的流通の経済学』（日本経済新聞社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71625	財務会計論 1	営： 選・A	2～4	4	通 年	鎌 田 信 夫
他の科目との関連	会計原理・株式会社会計論・国際会計論 （「会計原理」修得者のみ履修可）			他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 財務会計は企業外部の人々が利用する財務諸表の作成に関係した問題を取扱う。例えば、銀行は、企業に対して貸付けを認めるかどうかを決定する場合、企業の現金創出能力に関する情報を求める。投資家は企業に投資するかどうかを決定する前に、企業の収益性に関する情報を求めている。これらの財務情報は財務諸表により伝達される。これらの財務諸表の利用者は多く、いろいろ異なるから、財務諸表の内容および形式についてある程度まで統一化する必要性が生じてくる。この講義では、企業が外部の利用者のために作成する財務諸表の基礎にある諸原則について講述する。

【講義計画】 1. 企業活動と財務諸表
2. 会計概念と方法 (1)貸借対照表、 (2)損益計算緒、 (3)現金収支計算書
3. 一般に認められた会計原則に基づく資産および持分の測定および報告
(1)当座資産、 (2)棚卸資産、 (3)固定資産、 (4)負債、 (5)オフ・バランスシート財務、
(6)所有主持分、 (7)長期有価証券

【評価方法】 1. 定期試験
2. リポート
3. 出席態度
4. その他

【テキスト】 鎌田信夫著『資金会計の理論と制度』（白桃書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71626	財務会計論 2	営: 選・A	2～4	4	通 年	藤 井 達 敬
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 財務諸表（Financial Statements）は企業の利害関係者に企業の実態についての情報を提供している。企業は財務諸表を定期的に公表することによって社会的責任の一端を果している。財務諸表による財務公開制度は商法、証券取引法によっても企業に義務づけられている。このように財務諸表の社会的意義は高いが、財務諸表を作成するには多くの会計的判断を伴う。即ち、会計の事実（経営活動もしくは企業活動）を数値化する過程で多くの会計的判断が必要とされる。会計的判断をするにあたってはその判断の拠る所即ち判断基礎を必要とする。この講義では会計的判断の基礎ともいべき近代会計理論について講ずるとともに企業会計原則、財務諸表規則、計算書類規則についても言及する。

【講義計画】 I. 近代産業社会と企業会計
 ①近代産業社会における企業
 ②利害関係者、社会的責任と企業会計
 II. 近代会計理論の特質
 ①近代会計理論における利益測定構造
 ②利益測定構造を支える諸原則
 III. 損益計算書会計
 ①収益の計上原則
 ②費用の計上原則
 IV. 資産会計
 V. 負債会計
 VI. 資本会計

【評価方法】 前期・後期の定期試験と年数回のレポートにより評価する

【テキスト】 未定。授業開始時に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71631 71633	株式会社会計 A・B	営: 選・A	2～4	各2	後 期	高 橋 弘 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 複式簿記をはじめ、企業会計の基礎知識を既に修得していることを前提に、大規模株式会社特有の会計問題、ならびにそれらの財務報告制度について講義する。

【講義計画】 株式会社 A 株式会社 B
 1. 株式会社会計制度(1) 1. 連結財務諸表制度
 2. " (2) 2. 連結会計の基礎的前提
 3. 株式会社の資本の構成 3. 連結会計の一般原則・一般基準
 4. 資本準備金 4. 連結の範囲
 5. その他の資本剰余金 5. 連結貸借対照表・連結損益計算書
 6. 株式会社の増資(1) 6. 連結精算書
 7. " (2) 7. 親会社の子会社株式勘定と子会社の資本勘定の相殺消去
 8. 利益準備金 8. 連結調節勘定
 9. 株式会社の利益処分(1) 9. 少数株主持分
 10. " (2) 10. 未達事項・連結会社間取引の整理
 11. 商法の配当制限とその計算(1) 11. 未実現損益の消去(1)
 12. " (2) 12. " (2)

【評価方法】 定期試験の成績に基づく絶対評価法に、相対評価法を加味して行う。毎回、出欠をとる予定。

【テキスト】 武田安弘編『最新簿記精説（下巻・上級編）』（創成社）
中央経済社編『会計法規集』（中央経済社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71635 71637	経営情報論 A・B	営: 選・B	2～4	各2	前 期 後 期	山 田 進
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営情報論は現代の経営管理にとって極めて重要な情報システムを、その意義、実現機能、背景となっている技術の特徴といった観点から、数個のトピックスに分けてその概要を説明し、情報システムの経営管理における役割や接点と、そこに内在する諸問題を認識しようとするものである。
3回ないし4回の授業で下記の1テーマ（1～7）を説明検討してゆく。

【講義計画】

- ハードウェア・ソフトウェア・ヒューマンウェア
ENIACの誕生と世代の変遷／プログラム内蔵方式とコンピュータ動作原理
プログラミングの登場とオペレーティングシステム／ソフトウェア・クライシス
分散環境とエンドユーザ・プロセッシング
- 経営情報システム発展段階説
情報システム発展の6段階／自社段階の確定とベンチマークテスト
今後の発展段階（第5、6段階）の特質
- オフィスオートメーションと知性の増幅
OA推進上の問題点／期待されるオフィスオートメーション像：統合OA／情報システム
統合OA推進の戦略
- データベースと情報資源管理
データベースの意義／データベースシステムの構成とDBMS機能
データ標準化とデータ資源管理
- マルチメディアとネットワーク
マルチメディアの意義／通信手段の変革
- 戦略情報システム
- 情報セキュリティと情報倫理
情報化と安全性・信頼性確保／一般的セキュリティとコンピュータセキュリティ
情報を取扱うもののモラル

【評価方法】 各テーマごとにレポート提出（課題、期限はその都度指示する）
期末試験はない（毎回のレポートの平均点で成績評価する）

【テキスト】 各テーマ毎に資料を配布する（欠席者は研究室迄）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71651 71653	企業論 A・B	営: 選・B	3・4	各2	前 期 後 期	成 生 達 彦
他の科目 との関連	数学・経済原論を履修していることが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 企業組織、継続的取引関係および戦略的行動

【講義内容】 教科書的な経済理論では、企業は要素市場で原材料を購入し、それを製品に変換するブラックボックスとして捉えられている。前期には、教科書的なミクロ経済理論における企業行動を題材として多変数関数の制約条件付き極大化問題を解説する。また、講義で扱うトピックスの基礎理論を提供する取引費用アプローチ、エージェンシー理論更にはゲーム論等について説明する。後期には、
1)企業の（内部）組織としての側面、すなわち終身雇用制や年功賃金などの日本的雇用慣行、
2)下請け制や系列に見られるサプライヤー・メーカー・ディーラー間での長期にわたる継続的取引関係、
3)製品市場における企業間の水平的競争（相互依存関係）と企業の戦略的行動、
について検討する。

【講義計画】 この授業の内容は基礎から応用へと一貫しており、途中で理解できなくなるとそれ以降は聞いて

も無駄である。その意味で、毎週の復習が極めて重要であり、理解度を確認するための小テストを数回行う。

【評価方法】 小テストおよび定期試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 参考書：今井賢一（他）『内部組織の経済学』（東洋経済新報社）
青木昌彦『日本企業の組織と情報』（東洋経済新報社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71655	多国籍企業論	営： 選・B	3・4	4	後 期	A. Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 This is a course on the management of multinational corporations (MNCs). The course will first briefly discuss the external environment facing the MNC.e.g.,international trade, foreign exchange, international legal environment,etc.. Other topics to be surveyed will be the strategy and structure of MNCs, multinational human resources management, multinational marketing, multinational finance, and technology transfer.

【講義計画】 This course will consist of lectures in English

【評価方法】 One midterm and one final examination

【テキスト】 Reading List

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71661 71663	労使関係論A・B	営： 選・B	3・4	各2	前 期 後 期	藤 原 道 夫
他の科目 との関連	経営労務論A・B，仕事の経済学A・B			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 国際比較の視点から見た日本の労使関係の構造とプロセス

【講義内容】 労使関係論というのは、勤労者が働き生活する上で作り上げていく労働組合という組織と経営者や国家との関係を探っていく学問領域である（詳しくは、『経営学ガイドブック（第2版）』を参照のこと）。したがって、労働組合の構造と機能とについて十分理解した上で、労働組合と他の組織との関係を研究していくことになる。

講義は、はじめて労使関係のことを考えた諸君にも分かりやすいように、進めていくつもりである。前期は基礎的な知識を学び、後期は理論について考えることを目的とする。教科書・参考書については講義の中で紹介する。

【講義計画】

1. 労使関係論の対象と方法
2. 労働組合のイメージ
3. 組織体としての労働組合
4. 外国の労働組合と日本の労働組合
5. 日本の企業別組合
6. 団体交渉・労使協議・苦情処理
7. 団体交渉
8. 労働争議
9. 労働組合効果
10. 労使関係の国際比較
11. 産業民主主義
12. まとめ－経営効果と労働組合、民主主義国家と労働組合－

【評価方法】 試験80％、レポート20％

【テキスト】 参考書：白井泰四郎『労使関係論』（日本労働研究機構）

津田眞激編著『現代の労務管理と労使関係』（現代経営学 有斐閣）
 白井・花見・神代『労働組合読本』（東洋経済新報社）
 中村・佐藤・神谷『労働組合は本当に役に立っているか』（総合労働研究所）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
71671 71673	投資論 A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	岩 城 秀 樹 加 藤 清		
他の科目 との関連	全学共通科目で開講されている程度の統計学・数学・ミクロ 経済学の知識があることが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修	不可	

【副 題】 証券分析入門

【講義内容】 日本証券アナリスト協会検定試験科目、証券分析 1 次レベル相当の証券投資のための基本的分析
 手法のいくつかについて講義する。

【講義計画】 1. 確率・統計の復習
 1-1. 確率変数
 1-2. 平均・分散・共分散
 1-3. 回帰分析
 2. 株式投資
 2-1. 平均・分散アプローチ
 2-2. CAPM (Capital Asset Pricing Model)
 2-3. インデックス・モデル
 2-4. APT (Arbitrage Pricing Theory)
 3. 債券投資
 3-1. 利回り計算
 3-2. 金利リスクの測定（デュアレーション（duration））
 3-3. 投資戦略（イミュニゼーション（immunization））

【評価方法】 学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 ①安達智彦、斉藤 進『セミナー・現代のポートフォリオ・マネジメント』（同文館）
 ②証券アナリスト協会編『証券投資論』（日本経済新聞社）
 ③小峰みどり『アナリストのための数学入門』（ビジネス教育出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
71681 71683	マーケティング・マネジメント A・B	営: 選・B	3・4	各2	後期	湯 本 祐 司		
他の科目 との関連	マーケティング論、マーケティング・マネジメント、マーケ ティング・リサーチ、企業論、流通論、経済原論			他学科 履 修	可	重 複 履 修	不可	

【講義内容】 企業の対市場適応行動としてマーケティングの基礎知識を体系的に解説する。

【講義計画】 前半はマーケティング・マネジメントのプロセスを説明し、市場分析、消費者行動分析に言及す
 る。後半はマーケティング戦略の基本的構成要素である製品、価格、販売経路、広告、販売促進を
 めぐる諸決定を取り上げる。参考文献については講義の中で紹介する。

【評価方法】 定期試験（レポート）、出席等

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71701 71703	監査論 A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期	鳥 羽 至 英
他の科目 との関連	財務会計（財務諸表論）は履修してほしい			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

AとBにわけて説明する。AとBはそれぞれ独立している講義である。

監査論 A

【講義内容】 わが国の証券取引法監査と商法監査の仕組みを理論的に説明することを目的としている。（外部報告に関連した監査）

【講義計画】 以下の順序で授業を進めていく。

1. 実態監査の理論
2. 情報監査の理論
3. 実態監査と商法監査
4. 商法監査の歴史
5. 商法監査の実際
6. 情報監査と証券取引法監査
7. 証券取引法監査の仕組み
8. 証券取引法監査の実際

【テキスト】 基本的には、資料に基づいて授業を進めるので、教科書はない。

監査論 B

【講義内容】 株式会社の内部で経営目的に行われている内部監査の仕組みを理論的に説明することを目的としている。（経営管理に関連した監査）

【講義計画】 以下の順序で授業を進めていく。

1. 内部統制の枠組み
 2. 内部統制の構成要素
 3. 監視活動と内部監査
 4. 実態監査と内部監査
 5. 内部統制の評価
- 大和銀行のケースを最初に取り上げてみたい。

【テキスト】 以下の本を教科書として使い、完全に読破することを目的とする。
鳥羽・八田・高田共訳『内部統制の統合的枠組み』（白桃書房、1996）

【評価方法】 出席の状況と試験の結果を総合して評価する。
50％は客観問題、50％は論述問題。AとBいずれも同じである。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71705 71707	経営分析論 A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	斎 藤 孝 一
他の科目 との関連	会計原理を履修することが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営分析は、財務諸表分析、あるいは財務分析とも呼ばれているように財務諸表にに記載されている会計データを分析する事によって企業の業績の内容を評価することを目的としている。財務諸表は、様々な企業内外の利害関係者にとって重要な情報を提供している。債権者は企業の返済能力に関心があり、投資家は、企業の発行する有価証券の価値判断を行うために、財務的な能力に関心を持っている。また、経営管理者は、実際の業績と予算や標準との比較、企業内の各部門の業績評価など、財務的な業績の分析を必要としている。

本講義は、以下に示す計画に従って、キャッシュ・フローの分析を中心に講義を進める予定である。

【講義計画】 講義は、次のような内容を取り上げる予定である。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 経営分析の意義と方法 | 1. 会計データの収集 |
| 1. 会計データの限界 | 1. 平均財務諸表と百分率財務諸表 |
| 1. 成長性の分析 | 1. 健全性の分析 |
| 1. 収益力の分析 | 1. 営業利益の分析 |
| 1. 売上総利益と販売管理費の分析 | 1. 財務体質の分析 |
| 1. 財務流動性の分析 | 1. 財務安定性の分析 |

【評価方法】 前期後期の期末試験を中心として、出席率、授業態度等をも考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 鎌田信夫編著『現金収支分析の新技法』

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71711 71713	税務会計論 A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	藤 井 達 敬 他
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 社会における税金の役割と税務と会計との関係を理解させ、会計上必要な税務の基礎的知識・技術を習得させることを目的とする。日本公認会計士協会東海会所属の会計士グループにより、国税・地方税および国税税務の諸問題について講義する。
会計原理および財務会計論を履修済みの学生（約40名）を対象する。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 その都度、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71715 71717	国際会計論 A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	藤 田 幸 男
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際会計は、経済活動の国際化および多国籍企業の出現に伴って生じた会計上の問題を扱う領域である。それは、経済活動の国際的理解を促進し、国際協力および国際平和の実現に貢献するものである。

【講義計画】 この講義では、経済の発展と会計の歴史的展開、財務報告制度の国際的現状、経済の国際化と会計上の新しい課題、および会計基準の国際的調和化、国際会計の研究および教育について研究を進める。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71721	データ解析 1（労務）	営: 選・B	3・4	2	前期	藤 原 道 夫
他の科目 との関連	経営統計学、情報リテラシー、経営労務論 A・B			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経営労務に関するデータの分析

【講義内容】 経営労務論、労使関係論に係る数量的データの分析について講義実習を行う。統計学に関する知識は持っている方が望ましいが、必ずしも前提とはしない。主要な目的は質問紙調査や統計資料で得たデータをどのように加工し意味のある結果を発見するかということである。

初歩的でかつ利用範囲の広い「カイ 2 乗検定」、「平均値の差の検定」から始め、回帰分析にまで進む予定である。常に「今、何のために何をしているのか」ということを経営労務論や労使関係論の側面から確認していく。

統計パッケージとしては SPSS X を用いる。SPSS X の使い方やコンピューターの使い方については講義の中で説明する。また、必要参考資料は講義の時に配布する。

- 【講義計画】 1. 端末の操作とSPSSXの実習
2. 質問票とデータ定義
3. 原データの加工、新変数の定義
4. SPSSXと記述統計
5. SPSSXと仮説検定

【評価方法】 授業への参加（20％）、レポート（80％）

【テキスト】 SPSSXについてのマニュアル（プリントで配布予定）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71722	データ解析2（流通）	営： 選・B	3・4	2	前期	成 生 達 彦
他の科目との関連	情報リテラシーおよび統計学を履修していることが望ましい。 また市場調査論の履修を推薦する。			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 “馬鹿の大足、のろまの小足”と言われるが、足の大きい人は成績が悪いのか？ 足の小さい人は本当に運動音痴か？ また女子学生の方が男子学生よりも成績が良いと言われているが、それは本当か？ また何故か？ 最初の問題は足の大きさと成績や100m走のタイムとの相関（回帰分析）を調べればよいし、男女間の成績格差は分散分析によって確かめられる。講義ではさまざまな事象を統計的に考え、コンピュータ（SPSS）を用いて解答を出す。また、マーケティング論におけるいくつかの実証研究について解説する。

【講義計画】 回帰分析（ t 値や R^2 の意味）や分散分析をはじめとする統計学の基礎知識について講義し、適当な時期にコンピュータ（SPSS）の操作についての講習を行う。2週に1回の割合で、講義で学んだことをコンピュータを用いて結果を出すというタイプの宿題を課す。

【評価方法】 宿題及び定期試験（自由課題レポート）総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じて配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71723	データ解析3（会計）	営： 選・B	3・4	2	後期	斎 藤 孝 一
他の科目との関連	会計科目・統計科目を履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 将来キャッシュフローの分析

【講義内容】 本講義は、わが国の有価証券報告書に掲載されているデータを使用して、将来キャッシュフローの分析を行なう。標本として使用する企業は、適宜選択する。
本講義は、以下に示す計画に従って講義を進める予定である。

【講義計画】 講義は、次のような内容を取り上げる予定である。分析測定値は、各種利益、運転資本、日経キャッシュフロー、営業活動、投資活動、財務活動からのキャッシュフローとする。データの解析は、次の2点について行なう。(1)キャッシュフローの伝統的尺度と新しい尺度の間に相関があるかどうか。(2)発生基準による利益は、将来キャッシュフローの予測尺度としてすぐれているかどうか。

【評価方法】 出席率、授業態度等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 資料の収集、分析方法については、講義時に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71724	データ解析4（環境）	営: 選・B	3・4	2	前期	薫 祥 哲
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営業務のさまざまな意志決定を行う上で、数量的データの分析は不可欠である。単なる「平均値」や「分散」といった様な記述統計の概念以外に、統計的な「仮説検定」や「回帰分析」等の手法を理解することは、データの有効利用に多に役立つ。

講義では、一般的な統計学の概念と、変数相互間の関係から始め、仮説の立て方と、その仮説の統計的検定に進む。さらに、変数相互間の関係を表わすモデルを考え、最も広く使われている「最小二乗法」による回帰分析を学ぶ。時間があれば、ロジット・モデル等の「最尤法」に基づく回帰分析も取り扱う。主としては、同時点内の横断面データの分析中心に講義を行い、時系列のデータは扱わない。

個々の学生が実際にデータを分析出来るように、PCやコンピューターの操作も説明する。統計パッケージとしては、PCをベースとした、TSP（Time Series Processor）と呼ばれる計量経済学用のプログラムを使用する。

【講義計画】 講義とPCを使った演習を平行して進める。教科書以外に必要な参考文献は、講義の時に配布する。

【評価方法】 レポート、練習問題、そして前期定期試験で評価。

【テキスト】 和合 肇・伴 金美著『TSPによる経済データの分析』（東京大学出版会、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71801 71802	現代産業論（損害保険論）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	菊 名 俊 寛
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 産業が高度に近代化した現代社会において、我々の日常の経済活動・社会生活における「危険」は極めて多様化し、巨大化している。このような環境下で、損害保険は企業・団体・個人の諸活動に不可欠な役割を果たすとともに、金融界における影響力も増大している。また世界の損害保険マーケットにおける、日本の地位向上も目覚ましいものがある。

本講座では損害保険の実務・実態をベースにその理論を連結させて、損害保険事業に対する正しい認識の習得を目指す。

【講義計画】 上述の目標にむけて
 (1)損害保険の原理・仕組み・機能を、法律学、経済学、経営学等の視点から多角的なアプローチを行う。
 (2)日本損害保険業界の現状分析と主要商品についての研究および役割を検証する。
 (3)金融業界における損害保険業界の地位と資産運用の現状および役割を検証する。
 (4)国際化の現状と世界の損害保険市場の研究を行う。

という諸点を中心として講義をすすめて行く予定である。極力平易で受講者に理解しやすい内容の講義を展開する予定であり、全受講生の積極的な取り組みを期待する。

【評価方法】 レポートの提出を求める。

【テキスト】 「講義用レジメ」を中心に、講義を展開する。
 配布資料：『日本の損害保険ファクトブック』（日本損害保険協会、1994）
 参考書：長崎正造、高木秀卓編『損害保険読本（第3版）』（東洋経済新報社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71803 71804	現代産業論（総合商社論）１・２	自	３・４	各２	前期 後期	松 井 清 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本の総合商社は、外国に類例を見ない独特な企業形態をもち、地球規模で活動している国際総合事業会社である。日本の経済・産業の発展とともに、貿易を中心として商取引にとどまらず、金融・情報・投資など多様な機能を開発して、あらゆる産業分野にわたり事業活動を拡大・発展してきた。

総合商社の歴史は、日本の経済・産業発展の縮図とも言えるであろう。しかし、日本の経済・産業構造が大きな変革に向かっていく今日、総合商社はその機能と役割をどのように位置づけ、またどのような企業戦略を展開して行くかが改めて問われている。

そこで、“総合商社とは何か”、日本および世界貿易の動向や国際通商問題などにも言及しながら、変革の時代を生き抜く総合商社の現状と将来の姿を展望する。

【講義計画】 (1)総合商社の機能と活動 (2)日本経済の発展と総合商社の役割 (3)世界経済と総合商社の活動 (4)総合商社と６大企業集団 (5)９大総合商社のプロフィール (6)総合商社の長期経営戦略と将来像
授業では、商社活動の最新のトピックスも取り上げ、またビデオによる商社活動の実例や35年余の商社の実務体験談などを交えて、商社活動の実態に触れることとする。

【評価方法】 授業への参加度（質疑応答など）と期末にレポートの提出を求める。

【テキスト】 レジュメ『総合商社論』を配付、また関連資料を随時配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71805 71806	現代産業論（自動車産業論）１・２	自	３・４	各２	前期 後期	願 興 寺 皓 之
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「日本の自動車産業の特質と課題」

【講義内容】 日本の自動車産業は今、量的にも質的にも一つの転換期を迎えつつある。一方では、国内生産についてこれ迄の様な右肩上りの成長が期待できず、他方では、海外生産の拡大により国際関係も単なる通商関係を越えて各国の産業社会政策も含めたものへと深化しつつある。

こうした経営環境変化の中で、自動車産業はどのような歴史的変質を迫られているのか。また、完成車メーカーを中心に今どういう取組みが進められているのか。こうした視点から産業の実像を整理し、その中から中長期的な問題点と課題を抽出し対応の方向を考えてみたい。

【講義計画】 全体を次の３つに区分し、12回で構成する。

先づ最初に、自動車産業についての基本的な事実関係を確認した上で、それに相応しい産業の役割なり責任について、80年代の米国の空洞化と90年代の再出発を例に具体的に考える。

次いで、戦後の産業形成過程を製造販売そして労使関係の側面からレビューし、日本自動車産業の特質を明らかにする。

最後に、現在直面する課題を中長期的視点から整理し、将来に向けて健全な産業活動を持續していくための収益構造改革や商品企画・営業の革新そして人事労務政策と労働組合運動の方向を探る。併せて、新たな課題としての環境との共存を考え、最後に日本自動車産業の国際化の方向を展望する。

【評価方法】 毎回講義終了時に提出する自由意見と、テーマレポートから評価する。なお出席回数も参考とする。

【テキスト】 『自動車産業の特質と課題』（講義時に配布、一般書店取扱いはしない。）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71807 71808	現代産業論（電子・電機産業論）１・２	自	３・４	各２	前 期 後 期	三 田 良 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 戦後の日本の経済発展に貢献した日本の家電産業の発展プロセスと業界がかかえている経営課題を解説し、将来展望を考える。

【講義計画】 特に、1970年以降の「海外事業展開」「日米経済摩擦」「円高」「グローバル経営」「M&A」、「国際協調」「輸入拡大」等、現実的なテーマを中心に深く掘り下げ、グローバル時代の企業存続をかけた基本課題を模索する。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 その都度、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71809 71810	現代産業論（都市銀行論）１・２	自	３・４	各２	前 期 後 期	高 木 夏 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 都市銀行の金融機能、収益構造を踏まえ、激変する経営環境と金融自由化に伴う業務内容の変化、経営戦略について研究する。

【講義計画】 証券化・国際化の流れの中で都市銀行が行う国際金融、証券業務についても検討を加え、将来の都市銀行像を研究する。

【テキスト】 参考書：講義の途中で随時紹介する。
配付資料：理解を深めるため必要な統計資料を講義に即し配付。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71811 71812	現代産業論（先輩経営者と語る）１・２	自	３・４	各２	前 期 後 期	早川淳一郎 他
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 南山大学の卒業生で、企業経営の第一線でオーナー経営者として活躍している先輩が学生に語りかける。創業者あり、２代目経営者ありの布陣であるとともに、スモール・ビジネスのオーナーであるが、いずれも日々の判断がその企業に大きな影響をもつ人達が豊富な経験にもとづいて経営論、人生論を講義する。

現代産業論 ～先輩経営者と語る～

平成８年度年間計画表 火曜日７・８時限（２：４０～４：１０）

	講 義 日	講 師 卒 業 年 次	会 社 名 種	役 職	講 義 テ ー マ
1	4月9日 10月1日	早川 淳一郎 S31 社	愛知木材㈱ 住宅・木材製品	社 長	私の経営雑感
2	4月16日 10月8日	杉 山 正 行 S31 社	ユニバーサル貿易 機械工具輸入	社 長	欧米企業家の戦前と戦後
3	4月23日 10月15日	松 本 吉 正 S29 仏	㈱若尾総合舞台 舞台ＴＶの演出・照明・音響・美術	社 長	アートとマネー
4	4月30日 10月22日	脇 坂 豊 S38 仏	東報防災工業㈱ 消防施設工事	会 長	経営雑感
5	5月7日 10月29日	九 鬼 綾 子 S53 米	ミックインターナショナル㈱ 外国語サービス	社 長	資本金100万円で作った会社
6	5月14日 11月5日	山 口 道 夫 S44 米	つばめタクシー㈱ タクシー	専 務	タクシーは情報の玉手箱
7	5月21日 11月12日	小 泉 寿 子 S44 仏	㈱プロンプト コンピュータ教育	社 長	仕事っておもしろい！ ～コンピュータとの出会い～
8	5月28日 11月19日	林 薫 S38 英	㈱大企総合 広告代理店	社 長	ある広告マン生きざま
9	6月4日 11月26日	志 水 篤 彦 S43 営	エスエス工業㈱ 照明器具	社 長	実践リーダーシップ教室
10	6月11日 12月3日	佐々木 功 S42 営	サンボッカサービス㈱ 自動販売機商社	社 長	つまるところ人と人
11	6月18日 12月10日	佐 藤 久 美 S51 米	ナゴヤアベニュー 英文雑誌編集・発行	代 表	外国人ライターから見た 名古屋・日本
12	6月25日 12月17日	武 藤 正 行 S45 営	桜木不動産コンサルタント 不動産鑑定士	社 長	戦後の地価動向と不動産鑑定 士の役割
13	7月2日	尾 関 和 成 S47 営	㈱柏彌紙店 美術・小間紙	社 長	ふすま紙って知ってる？
14	1月7日	加 藤 博 明 S45 営	㈱プロテックス 写真製版・印刷	社 長	まちがい ～失敗論～

【評価方法】 レポート

【テキスト】 その都度、配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71831 71832	国際経営事情（海外直接投資 A・B）	自	3・4	各2	前 期 後 期	上 田 太 蔵
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「海外直接投資」

【講義内容】 近年、日本企業の生産拠点の海外シフトが急増しているが、アジアNIES、ASEAN、中国及び欧州連合（EU）諸国への技術移転と直接投資の意味と経営課題についての基礎的理解を目標とする。また、それぞれの国のBUSINESS PRACTICEの背景にあるBUSINESS CULTUREを理解することは、進出する日本企業にとって不可欠の条件である。産業政策、金融制度、ビジネス慣習、労働事情、技術力等々を通じ、主要国のBUSINESS CULTUREについての基礎的理解を目指す。

【講義計画】 講義は次の順序で、実務経験をまじえて進める。
 (1)日本企業の技術開発と生産システムの基本知識。
 (2)アジアNIES、ASEAN、中国への技術移転と直接投資。
 (3)欧州統合市場と日本企業の直接投資。
 (4)英仏独伊諸国のBUSINESS CULTURE。
 (5)日本企業のグローバル化と現地化の課題。

【評価方法】 前・後期各1回レポート提出。出席を重視する。イデオロギーや固定観念にとらわれず、現実的、論理的な考え方を評価する。

【テキスト】 講義の中で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71833 71834	国際経営事情（外国為替と国際金融A・B）	自	3・4	各2	前 期 後 期	堀 晃 明
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 前期から後期の前半にかけては、実社会において役に立つ外国為替実務（含貿易金融）の説明を中心にするが、外国為替相場が変動した折には、その背景や関連したカレント・トピックスも適宜交えながら講義を行う。後期の後半においては、変動相場制下における外国為替相場変動を理解する上で必要な国際通貨制度の歴史を辿り、また戦後世界的な資金市場に発達したユーロ市場についても触れることとする。なお、講義中時間の余裕がある場合には、日本文化と日本式経営とに関連した話題も取り上げる。

経 営 学 部

経営学科(国際コース)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71101 } 71103	英語 I (読解および作文) 1・2・3	国:必	1	各4	通 年	P. LaForge P. Binford J. Mainland
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Reading and Writing I

【講義内容】 The purpose of this course is to develop high-level skills in academic reading and writing, including preparation for the Test of English as a Foreign Language(TOEFL). The reading component includes practice in intensive, extensive, rapid and critical reading. Vocabulary improvement, study skills training, and other reading skills will also be covered. The writing component includes practice in sentence structure, paragraph, journal, and essay writing. Basic business writing (memos, letters) may also be included. As a general rule, all homework must be typed.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:
 —Written Examination
 —Oral Examination
 —Oral Report(s)
 —Written Report(s)
 —The use of reference materials is possible
 —Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
 —Other methods of evaluation sgeere to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71110 71111	国際ビジネス論 I 1・2	国:必	1	各2	後 期	加 藤 清
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本コースの目的は、学生諸君が国際ビジネスにかかわる出来事に興味を持つように手助けすることである。講義ならびに発表を通じて、国際経営ならびに関係する分野の基礎的な知識を身につける。その都度、時事問題をテーマとしてとりあげ討論を行う。

【評価方法】 レポート 50%
 クラスでの発表 40%
 クイズ 10%

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71121 } 71124	英語 II (読解および作文) 1・2・3・4	国:必	2	各4	通 年	L. Woo A. Lara-Peters P. Mason M. Fenwick
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Reading and Writing II

【講義内容】 See description for Reading and Writing I

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation sgeere to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71131	国際ビジネス論Ⅱ	国・必	2	4	前期	大 津 誠
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 国際ビジネスの理解に必要な種々の経済理論を学んだ後、国際ビジネスをめぐる政治的・法律的・経済的環境要因について学ぶ。この科目はそれ自体で完結するが、同時に国際ビジネス活動の諸側面について扱う国際ビジネス論Ⅲ（多国籍企業論）に対するイントロダクションとしての役割りも果たす。

【講義計画】 アメリカの大学で使用されている国際ビジネスの標準的教科書を使用し、以下のトピックにつき1週間（2回）につき1つずつ終えるペースで進む。

1. development of international trade
2. world investments
3. foreign trade theories
4. foreign investment theories
5. international trade agreements
6. foreign exchange and money markets
7. international monetary system
8. balance of payments
9. commercial policies
10. political environment
11. legal environment
12. economic environment

【評価方法】 小テストと期末試験による。配点は以下の通り。

小テスト	45 (15×3)
定期試験	55
計	100

【テキスト】 （予定）George M. Taoka & Don R. Beeman, *International Business: Environments, Institutions, and Operations*, Harper Collins, 1991.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71141	国際ビジネス論Ⅲ	国・必	2	4	後期	A. Iaquinto
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 This is a course on the management of multinational corporations (MNCs). The course will first briefly discuss the external environment facing the MNC.e.g., international trade, foreign exchange, international legal environment,etc.. Other topics to be surveyed will be the strategy and structure of MNCs, multinational human resources management, multinational marketing, multinational finance, and technology transfer.

【講義計画】 This course will consist of lectures in English

【評価方法】 One midterm and one final examination

【テキスト】 Reading List

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71151 ∪ 71154	英語Ⅲ（論文作成法）1～4	国：必	3	各4	前期 後期	K. Yasuda D. Rines
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Academic Writing

【講義内容】 The goal of this course is to write a research paper of between 3,000 and 5,000 words. The purpose is to develop the skills necessary to write a research paper. There will be activities and discussions designed to help students choose, focus on, organize, develop, and research their topics. Library research and documentation of sources will be emphasized. As a general rule, all homework, including the final paper, must be typed.

【講義計画】 Lesson plans may differ with each teacher and will be explained at the beginning of each semester.

【評価方法】 The following criteria will be used for deciding grades.

- Attendance and punctuality
- Class participation
- Quizzes
- Homework
- Final research paper

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher and will be announced later.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71161 ∪ 71164	テーマ・ディスカッション1～4	国：必	3	各4	前期 後期	L. Woo D. Rines
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Theme Discussion

【講義内容】 The purpose of this class is to develop high-level discussion and oral presentation skills needed for success in university classes and the business world. Most classroom time will be spent analyzing and discussing business cases from the textbook. During the semester students will have to do at least one formal presentation in English. Because this is an oral skills course, regular attendance and active participation in English are extremely important.

【講義計画】 Lesson plans may differ with each teacher and will be explained at the beginning of each semester.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher, but any of the following may be used to decide student grades:

- Attendance and punctuality
- Class participation
- Oral presentations

- Quizzes and exams
- Homework
- In-class compositions

【テキスト】 Sawyer-Launcanno, Christopher. 1987. *Case Studies In International Management*. Englewood Cliffs, New Jersey:Prentice Hall.
One more text may be added at a later date.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71171 71172	国際経営基礎研究 1・2	国：必	3	各2	前 期 後 期	井 上 詔 三
他の科目との関連	データ解析を履修していることが望ましい。			他学科履修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Business Reserch Methods

【講義内容】 このクラスの目的は、国際経営研究 1～4 で作成する英文のペーパーを“研究論文”として仕上げるための基礎的手法を身につけることである。国際経営の分野における英文による実証的研究論文の多くは、一定の研究手法論に従って作成されている。そこでこのクラスでは、これらの論文を理解し、研究計画を設計するための第一歩として、経営学の標準的研究方法について学ぶ。主なトピックスは問題設定、文献調査、仮説設定、データ収集、データ分析などである。

【講義計画】

1. Research in Business
2. Scientific Thinking
3. The Research Process
4. Design Strategies
5. Measurement
6. Sampling Design
7. Survey Methods
8. Experimentation
9. Hypothesis Testing
10. Measures of Association

【評価方法】

1. 筆記試験（中間試験、期末試験）
2. 教室での報告、課題の合計点

【テキスト】 C.William Emory, *Business Research Methods*, 4th ed. Irwin, (1991)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71181	国際経営研究 1	国：必	4	4	通 年	大 津 誠
他の科目との関連	国際経営基礎研究(国際コース)の履修が望ましい(Prerequisiteではない)。同時に 4 年後期開講の英語論文作成指導(2)を履修すること。			他学科履修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際経営、国際人事管理の分野における英文による tutorial paper の作成を目的とする。paper の内容は第一義的には文献調査を想定しているが、個々の学生の興味・進度によっては、いわゆる記述的研究や、データ収集・分析を要する実証研究を行ってもよい。

【講義計画】 このクラスはゼミナール形式で行われる。まず国際経営基礎研究で学習した研究方法論に基づいて上記分野における代表的論文をグループで読解する。次にこのプロセスを通じて各自のテーマを決定し、テーマについての体系的文献調査を行う。最後にその結果を 30 ページ以上の tutorial paper にまとめる。テーマ決定後は個別に進展状況についての報告を行う。

【評価方法】 主として tutorial paper の評価によるが、クラスに対する貢献度も評価の対象となる。

【テキスト】 テキストは使用せず、教材としては各種学術論文（主として英文）を使用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71182	国際経営研究 2	国:必	4	4	通 年	井 上 詔 三
他の科目との関連	国際経営基礎研究 1 又は 2 を先ず履修し、データ解析を履修していることが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 Reserch Seminer 2

【講義内容】 国際経営の分野のうちHuman Resource Management/Industrial Relationsの領域で、英文によるtutorial paperの作成を目的とする。そのために先ず国際経営基礎研究で学習した「研究方法論」にもとづいて、経験的研究を行ったHRM/IRの代表的論文を読解する。次にこのプロセスを通じて各自のテーマを決定し、テーマについての体系的文献調査を行う。最後にその結果を30ページ以上のtutorial paperにまとめる。したがってpaperの内容は第一義的には文献調査を想定している。なお、個々の学生の興味・進度によるが、文献調査の後に記述的研究や、データ収集・分析を要する実証的研究を試みることを推奨する。

【講義計画】 1. Introduction:The Research Process
2. Literature Review
3. Problem Formulation
4. Designing the Study
5. Writing the Paper

【評価方法】 1. 報告・討論 2. Research Proposal 3. tutorial paperによる。

【テキスト】 Lawler, John, and others. 1989. "Human Resource Strategies in Southeast Asia," *Research in Human Resource Management*, suppl. 1, JAI Press, pp.201-221.他、英文の研究論文を配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71183	国際経営研究 3	国:必	4	4	通 年	M. Bremer
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 Research Seminar 3

【講義内容】 The objective of this seminar is to write a tutorial paper in English in the areas of international financial management, banking or capital markets. Students will prepare to write this paper by reading selected academic articles on finance and banking.

【講義計画】 This will be a seminar course. The seminar will start with students reading and presenting selected articles in finance and banking. Students will then write a proposal that describes their idea for a tutorial paper. Finally, students will write a tutorial paper of 30 pages or more. Each student will present his or her paper.

【評価方法】 Evaluation will be mainly based on completion of the tutorial paper although seminar participation will also be considered.

【テキスト】 This seminar does not have a required textbook. However, students will find the following books to be a good foundation for the seminar:
Gordon J. Alexander and William F. Sharpe, *Fundamentals of Investments*, Prentice Hall.
Richard A. Brealey and Stewart C. Myers, *Principles of Corporate Finance*, 4th edition, McGraw Hill.
Thomas E. Copeland and J. Fred Weston, *Financial Theory and Corporate Policy*.
David K. Eiteman, Arthur I. Stonehill and Michael H. Moffett, *Multinational Business Finance*, Addison Wesley.
Joseph Sinkey, *Commercial Bank Financial Management*, Macmillian.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71184	国際経営研究 4	国：必	4	4	通 年	A. Iaquinto
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 This seminar is intended to prepare students to write a major research paper in international business. Students will be exposed to basic research methods and the process of organizing and writing a major paper.

【講義計画】 This course will consist of lectures in English.

【評価方法】 Research paper due at end of course.

【テキスト】 Reading List

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71411 71412 71413	会計原理 1・2・3	国：選・必	1	各4	通 年	藤 井 達 敬 高 橋 弘 一 斎 藤 孝 一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71502 71506	経営学総論 A 2・B 2	国：選・必	2～4	各2	前 期 後 期	岸 田 民 樹
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71503	経営学総論 A 3（国際コース）	国：選・必	1	4	前 期	大 津 誠
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 アメリカの大学で使用されている経営学の入門的テキストを使用し、現代企業の活動について日米比較の観点から考察する。企業を有機的組織体として総合的に理解することに重点が置かれ、会計、財務、マーケティング、人事等個別の機能についての言及は最小限に止められる。主な内容は以下の通り。経営意思決定、組織計画、経営戦略、組織構造、組織設計、組織開発、経営倫理、国際経営。授業は日本語で行われるが、教科書は英語であるため、ある程度の英語読解力が要求される。

【講義計画】 講義は週2回行われるが、1週間につき、1章を終えるペースで進む。小テスト等の時間を除き、全部で10章程度をカバーする予定である。

1. Evolution of Management
2. Managerial Environments
3. Managing in the Global Environment
4. Ethics and Social Responsibility

5. Decision Making and Problem Solving
6. Strategic and Operational Planning
7. Organizational Design, Authority, and Power
8. Motivation Strategies
9. Leadership Theories
10. Organizational Change and Development

【評価方法】 小テストと期末試験による。配点は以下の通り。

小テスト	45 (15×3)
定期試験	55
計	100

【テキスト】 (予定) Donald C. Mosley, Paul, H. Pietri & Leon C. Megginson, *Management: Leadership in Action* (5th ed.), Harper Collins, 1996.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71516	経営労務論A2 (国際コース)	国: 選・必	2~4	4	前期	井 上 詔 三
他の科目 との関連	国際ビジネス論Iを履修していること			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Human Resource Management

【講義内容】 アメリカの大学で使用されている経営労務論の中級テキストを使用し、企業の人事・労務の諸問題について日米比較の観点から考察する。主なトピックは以下の通り。人事計画、採用、雇用平等、人事考課、賃金管理、能力開発、キャリア開発、労使関係、国際労務。これらの考察を通じて日本の多国籍企業が海外（主として北米）でどのような人事政策を展開すればよいかについても言及する。授業は日本語で行われるが教科書は英語であるため、ある程度の英語読解力が要求される。

- 【講義計画】
1. Introduction to Personnel/Human Resource Management
 2. Equal Opportunity and the law
 3. Job Analysis
 4. Personnel Planning and Recruiting
 5. Employee Testing and Selection
 6. Interviewing Job Candidates
 7. Establishing Pay Plans
 8. Performance Appraisal
 9. Career Management
 10. Basics of Labor Relations
 11. International Issues in Human Resource Management

【評価方法】 筆記試験（中間試験3回、期末試験1回）

【テキスト】 Gary Dessler, *Human Resource Management* (6th ed.), Prentice Hall, 1994

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71531 71535	マーケティング論A・B	国: 選・必	2~4	各2	前期 後期	中 田 善 啓
他の科目 との関連	企業戦略や経営戦略に関する科目の前提科目			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71541	北米における経営	国: 選・必	2～4	4	後期	M. Bremer
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Business in North America

【講義内容】 This course is an introduction to business in North America. The course will start with a survey of the North American Economy with emphasis on taxes, regulations and the role of government in the economy, as well as the current macroeconomic situation. The course will discuss managerial practices and labor force characteristics of the American economy. The financial side of American business will be explored, emphasizing banking and financial institutions. The distribution system and marketing will also be discussed. Students are required to read English business periodicals and to keep up with current economic events. Regular attendance is required

【講義計画】

Week	Class Agenda
1	Introduction and Overview Read: Outline, Parts I and II
2	A Historical Perspective Read: Outline, Part III
3	From Small Business to the Corporation Read: Outline, Part IV
4	Supplemental Reading Material
5	The Role of Government Read: Outline, Part VI
6	Financial Markets Read: Outline, Part V Read: Financial Market Structure: A Longer View
7	Banking, Monetary and Fiscal Policy Read: Outline, Part VII Read: The Federal Reserve Today Supplemental Material on Foreign Banks in North America
8	Distribution and Production Supplemental Reading Material
9-10	Labor & Productivity Read: Outline, Part IX Read: AFL-CIO, Bargaining Supplemental Material on Productivity
11	Foreign Trade Read: Outline, Part X Supplemental Material on the Trade Deficit
12	American Business and the Environment Read: Economic Report of the President: The Economy and Environment
13	Supplemental Material on Environmental Laws Read: Outline, Part XI
14	Agriculture Read: Outline, Part VIII

【評価方法】

Attendance/ Class Participation	10%
Midterm Exam	40%
Final Exam	50%
	100%

【テキスト】 Robert L. McCan, *An Outline of the American Economy*

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71543	経営倫理	国: 選・必	2～4	2	後期	P. LaForge
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 このクラスの目的はビジネスマンにとって最も大切な価値観を明確にする事である。授業は教員と学習者間の「教育契約」という方法にしたがって行われる。これは教員による講義のほかに二人・小グループ・大グループのディスカッション等学習者の参加を重視する方法である。これらの活動を通じて学習者の自己啓発が期待される。尚授業はすべて日本語で行われる。取り扱われる主なトピックは以下の通りである。経営倫理とは、個人の責任と企業の責任、採用・昇進・退職における人間の尊厳、顧客・納入者・政府・株主等に対する倫理的行動、競争企業との関係および合併。

【評価方法】 評価の基準は、次の通り。
 ——授業の態度
 ——出席
 ——レポート
 ——筆記試験はありうる

【テキスト】 モラロジー研究所編『モラロジー概説』（1990）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71545 71547	経営環境論A・B	国: 選・必	2～4	各2	前期 後期	薫 祥 哲
他の科目 との関連	経済原論を履修している事が望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71561	国際人事管理論	国: 選・必	3・4	4	後期	大 津 誠
他の科目 との関連	経営労務論（国際コース）の履修が望ましい。 （Pre-requisiteではない）			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日米の労働問題

【講義内容】 最近いわゆる「日本の経営」についての礼讃は影をひそめ、むしろその問題点が指摘される様になった。日本的経営のうちでも特に人事管理のあり方が諸外国との間の経済的摩擦の大きな要因と考えられている。このクラスでは労務関係論の観点から日米の雇用慣行を比較する。特にアメリカに進出している日系企業の直面する対労働組合問題及び雇用差別問題について考察する。

【講義計画】 講義は主として3つの部分から成る。1)人事管理と労使関係論 2)人事管理の日米比較 3)在米日系企業の労働問題。テキストはこれらのうちの主として1)を扱っているので必要に応じてプリントを配布して教材としたい。

1. 日本の雇用慣行の評価
2. 日米経済摩擦と労働問題
3. アメリカの労使関係理論
4. 日本の労使関係モデル
5. アメリカの労使関係法の発展
6. 日本の労使関係法
7. アメリカにおける雇用機会均等の現状
8. 日本における雇用機会均等の現状
9. 日米の人事管理の特徴：採用・配置・訓練
10. 日米の人事管理の特徴：賃金制度

11. アメリカ進出日系企業における労働組合問題
12. アメリカ進出日系企業における雇用差別問題

【評価方法】 中間テスト（40％）、期末定期試験（60％）により評価する。

【テキスト】 大津 誠『労使関係論——日本的経営と労働』（白桃書房、1991）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71563	国際財務論	国： 選・必	3・4	4	後 期	M. Bremer
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 International Financial Management

【講義内容】 This course deals with international financial markets and with the international dimensions of corporate financial management. The fundamental issue is how to deal with exchange rate movements. Lectures will be in English. Students are required to read business periodicals and to keep up with current economic events. Regular attendance is required.

【講義計画】

Week	Class Agenda
1	The Importance, Rewards and Risks of International Finance, Levi Chapter 1. Case 1: Introduction.
2	Cash and Spot Exchange Markets, Levi Chapter 2. Answer Questions #1,2,4 and 7.
3	Forwards, Futures and Options Markets, Levi Chapter 3. Answer Questions #1,4,6,8 and 12. Case 2: The Speculation Game.
4	Purchasing Power and Interest Parity, Levi Chapters 6 & 7. Answer Questions #1,2 and 3 on page 135 and Question #2 on page 162.
5	Foreign Exchange Risk and Exposure, Levi Chapters 9.
6	Review and Exam.
7	How to Hedge and Speculate, Levi Chapter 10. Answer Questions #1,2 and 3.
8	Transfer Pricing and Country Risk, Levi Pages 397-411. Answer Questions #5 and 9. Case 3: Bangkok Expressway.
9	Foreign Direct Investment, Levi Chapter 15. Case 4: Akida Motors.
10	Eurodollars, Eurocurrencies, Levi Chapter 11. Answer Questions #2 and 5.
11	Cash Management and Market Efficiency, Levi Chapter 12, Answer Questions #2,3,4 and 8.
12	International Aspects of Long-Term Financing, Levi Chapter 14. Answer Questions #1,2,6 and 9.
13	The Instruments, Institutions and Organization of International Trade, Levi Chapter 17 (skip pages 430-433).
14	Hollowing-out and Foreign Direct Investment in North America.
15	Foreign Direct Investment in Asia.

【評価方法】

Attendance/ Class Participation	10%
Homework/ Case Studies	20%
Midterm Exam	20%
Final Exam	50%
	100%

【テキスト】 Maurice D. Levi, *International Finance*, McGraw Hill, 1990

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71567	日本の経営	国： 選・必	3・4	4	後期	A.Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Japanese Business

【講義内容】 This is a course on Japanese business and management designed primarily for students enrolled in the International Course. After a brief review of the historical development of Japanese business institutions from the Tokugawa era through the 1960's, the class will examine contemporary Japanese business and management practices.

Major topics will include the political, economic and international environment of business, industrial structure, decision making processes, personnel practices, labor management relations, distribution systems, and financial markets. Throughout the course a central question will be addressed: What are the strengths and weaknesses of the so called "Japanese style management"?

【講義計画】 This course will consist of lectures in English.

【評価方法】 One midterm and one final examination.

【テキスト】 Reading List

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71575	国際マーケティング論	国： 選・必	3・4	4	後期	A.Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 This course covers some of the major topics in international marketing, including international marketing research, pricing, promotion, distribution, and product development.

【講義計画】 This course will consist of lectures in English.

【評価方法】 One midterm and one final examination.

【テキスト】 Reading List

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71581	アジアにおける経営	国： 選・必	3・4	4	前期	井 上 詔 三
他の科目 との関連	国際ビジネス論IIを履習していることが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Business in Asia

【講義内容】 東アジアは世界で最も高い成長率をとげている地域である。ビジネスの機会もそれだけ多いということである。そこで、この地域の主要な国々の投資環境を検討する。次に、経営行動のうち、人的資源管理・労使関係に焦点をしぼり、国際比較の観点から考察する。日系多国籍企業にとっての投資先としての経営環境の善し悪しを評価する能力を高め、課題についての理解を深めるのが、この科目のねらいである。

【講義計画】 1. The International Business Environment

- The Global Economy : World Investment Flows
- The Cultural Environment of International Business
- The Political Environment
- 2. Asia on line: World Wide Web
- 3. Case of Foreign Direct Investment
- Japanese Multinational Companies
- 4. Analytical Framework on HRM/IR
- Industrial relations systems
- Changing directions of HRM
- 5. The Development Experience of Asian NIEs and ASEAN countries
- 6. Studies of Industrial Organizations and Management
- Korea: the chaebols
- Taiwan: a case study of a large private enterprise
- Hong Kong and Singapore HRM practices
- Thailand and India: HRM/IR cases
- 7. Contemporary Issues in HRM/IR in Global Companies

- 【評価方法】 1. 筆記試験(中間試験 2 回、期末試験)
2. 教室での報告又は小プロジェクトレポート

【テキスト】 B.J. Punnett and D.A. Ricks, *International Business*, PWS-Kent, 1992 他研究論文、資料を配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71432	統計学 I	国:選	2	2	前期	木 村 美 善
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71437	統計学 II	国:選	2	2	後期	木 村 美 善
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71725 71726	データ解析 5・6 (国際コース)	国:選	2~4	各2	前期 後期	M. Bremer
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 Data Analysis

【講義内容】 The objective of this course is to familiarize students with various aspects, issues, and approaches involved in conducting business research. These aspects include: research style; orientation and philosophy; choice of research topic; design of research; measurement issues; formulation and testing research hypotheses. Students will use computers and statistical software.

【講義計画】 Introduction to TSP
Research in Business

Scientific Thinking
The Research Process
Design Strategies
Descriptive Statistics
Sampling Design
Survey Methods
Hypothesis Testing
Analysis of Variance
Regression and Correlation
Time Series
Forecasting
Nonparametric Statistics

【評価方法】 Evaluation will be based on successful completion of three research projects.

【テキスト】 C. William Emory, *Business Research Methods*, Irwin.
R. C. Pfaffenberger and R. C. Patterson, *Statistical Methods for Business and Economics*, Wadsworth.
Bronwyn H. Hall, *Times Series Processor User's Guide*, TSP International.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71771 71772 71775 71776	ビジネス英語 A 1 ・ B 1 ビジネス英語 A 2 ・ B 2	国：選	3 ・ 4	各2	前 期 後 期	A. Lara-Peters P. Binford
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Oral, Writing

【講義内容】 Students may take either or both sections. Content will vary depending on the instructor and ability of the class. Topics may include (1) how to give an effective business presentation using an OHP (overhead projector), blackboard, whiteboard or handout; (2) how to conduct and participate in business meetings, including starting, contributing to and closing the discussion; and (3) how to conduct interviews for hiring, evaluating, and collecting data.
Prerequisites : Open to 3rd and 4th year business students. A 2.5 or higher GPA average in English I and II (Conversation) or Sogo English I and II, or the approval of the instructor. A TOEFL Section I (Listening Comprehension) score of 48 or higher is strongly recommended. Enrollment : Limited to 40 students each.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The methods of evaluation differ with each teacher. The possibilities are as follows:
—Written Examination
—Oral Examination
—Oral Report(s)
—Written Report(s)
—The use of reference materials is possible.
—Audiovisual Equipment for evaluation might be necessary
—Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71781 } 71788	時事英語A～H	国・選	3・4	各2	前期 後期	S. Ryan M. Fenwick
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 The course will develop and practice speaking and listening skills. General topics will be chosen by the class. Depending upon the topic chosen, each student will select articles from newspapers, magazines, and journals according to his/her interests.

The student is responsible for explaining and listening to the explanations of others. Active participation in discussions is also required. There may be a semester project also.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the begining of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilies are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 No text required

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71791	英語論文作成指導 1	国:選	4	2	後 期	M. Bremer
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Thesis Tutorial 1

【講義内容】 The purpose of this course is to assist management students who are writing their graduation papers in English. Students will learn how to improve their English writing style and how to organize and format a long research paper according to standard manuscript guidelines.

Word processor skills are required. Lectures will be in English.

【講義計画】 Introduction
Lecture: "How to Write a Report"
Lecture: "Basic Typography"
Lecture: "Graphs, Figures, and the Visual Representation of Data"
Lecture: "Word Processor Tricks, Hints and Warnings"
Computer Databases
Group Discussion of First Draft of Research Paper
Lecture: "Analysis of a Model Report"
Group Discussion of Second Draft of Research Paper
Oral Presentation of Research Paper

【評価方法】	Attendance and Participation	15%
	Written Work	
	Drafts and Checklist	10%
	Final paper and checklist	50%
	Oral Reports	25%
	Total	100%

【テキスト】 Felici, James, *The Desktop Style Guide*, Bantam.
 Gibaldi, Joseph and Walter S. Achtert, *MLA Handbook*.
 Harada, Keiichi (translator), Joseph Gibaldi and Walter S. Achtert,
MLA Eigo Rombun no Tebiki.
 Sakimura, Koji, *Eigo Rombun ni Yoku Tsukau Hyogen*.
 Lester, James, *Writing Research Papers* (available in the Library).

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71792	英語論文作成指導 2	国:選	4	2	後 期	A. Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Thesis Tutorial 2

【講義内容】 英語論文作成指導 1 を参照

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71793	英語論文作成指導 3	国:選	4	2	後 期	M. Fenwick
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Thesis Tutorial 3

【講義内容】 英語論文作成指導 1 を参照

經 営 学 部

情報管理学科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75105 }	情報実習Ⅰ 1～4	必	2後	各2	後 期	後 藤 邦 夫 野 呂 昌 満 鈴 木 敦 夫 松 田 真 一 佐 々 木 克 巳
75108 75111 }	情報演習Ⅱ 1～4		3		前 期	
75114						
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 2年次後期と3年次前期の履修となる。情報実習Ⅰ・Ⅱでは、オペレーション・リサーチ、システム関連、統計学の3つの分野について、それぞれの分野の教員が順次、3回以上ずつ講義と実習指導を行う。

最初に講義日程と学科の計算機システムに関してオリエンテーションを行い、計算機操作の実習を行う。その後、各担当者の指導のもとに、それぞれの具体的なテーマについて勉強する。担当者ごとに課題を与え、それについてレポートを提出していただく。課題の多くは、計算機を用い、与えられた問題を解決し、それに考察を加えるものである。4つの小人数クラスに分かれるため、クラスにより担当順は異なるが、Ⅰ・Ⅱを通しての内容は同じである。各担当の講義内容の概略は以下の通り。

統計学（松田）4回〔統計学実習〕

統計パッケージSシステムを用いた実習で回帰分析とクラスター分析を行う。コンピュータによる統計解析は出力結果を得る手順を把握することが目標の一つであるが、さらに出力結果の見方・考え方を培うことも目標とする。

システム1（佐々木）3－4回〔古典命題論理〕（96年度前期は3回、それ以外は4回）

情報科学・情報工学を学ぶ際の基礎となっている「古典命題論理」について解説する。課題としては、（命題を抽象化した）論理式とよばれるものが正しいかどうかを判定するプログラムの作成を予定している。

システム2（後藤）3－4回〔数値計算入門〕（96年度前期は3回、それ以外は4回）

簡単な行列の計算、繰り返しによる連立方程式の解法、級数の計算などを学ぶ。離散時間マルコフ連鎖、連続時間マルコフ連鎖、PCMによるアナログ音声のデジタル符号化の原理などを例にとり実際に計算を行なうプログラムを作成し、その結果を考察することを課題とする予定である。

オペレーションズ・リサーチ（鈴木）4回〔線形計画法〕（96年度前期）

及び、オペレーションズ・リサーチ1（鈴木）4回〔線形計画法〕（96年度後期）

線形計画法の基礎を学ぶ。最初の2回は線形計画問題の定式化、シンプレックス法、双対定理などについて例題をまじえて解説する。後半の2回は、線形計画法のソフトウェアパッケージを用いて実際の問題を解く実習を行なう。課題は、定式化等の問題と、実際に線形計画法の問題を解く問題との両方を課す予定。

オリエンテーション（野呂、後藤）1－3回〔計算機の使用法〕（96年前期は1回、96年後期は3回）

学科の計算機システムの概要説明と、計算機の基本的な使用法として、ログイン、テキストエディタの使用、Pascalソースプログラムの編集とコンパイル、実行、電子メール、ネットワークニュースの使用法について実習と簡単な宿題を出す予定である。また、時間割、レポート提出要領などについてもこの時間に説明する。

【講義計画】 情報実習Ⅱでは、オリエンテーションの後、統計学、オペレーションズ・リサーチ、システム1またはシステム2の3つの講義・実習を行う。

情報実習Ⅰでは、オリエンテーションの後、統計学、オペレーションズ・リサーチ1、システム1、システム2の4つの中から2つの分野の講義・実習を行う。

詳しい内容は、オリエンテーション時に案内する。昨年度の時間割は、学科のネットワークニュース（nqnet.classes）で見ることができる。

【評価方法】 各担当教員の評価を総合して評価する。ただし、各担当教員の評価と、それらから総合評価を決定する方法は、それぞれ以下の通りである。

各担当教員の評価：

それぞれ、 $X \cdot F \cdot C \cdot B \cdot A \cdot A^+$ のいずれかの評価をする。レポートの提出がなければX。最低の要件を満たさないレポートはFである。オリエンテーションも他の分野と同様に評価する。総合評価：

4 分野（オリエンテーションを含む）の場合：

各担当の F・C・B・A・A⁺をそれぞれ45・65・75・85・95点とし、その合計点を用いて次のように決める。

X : Xが2つ以上

F : Xが1つまたはFが2つ以上、合計点が240点未満

C : F C C C あたりを想定し——240点以上

B : C C B B あたりを想定し——280点以上

A : B B A A あたりを想定し——320点以上

A⁺ : A A A A⁺ あたりを想定し——350点以上

3 分野（オリエンテーションを含む）の場合：

各担当の F・C・B・A・A⁺をそれぞれ45・65・75・85・95点とし、その合計点を用いて次のように決める。

X : Xが2つ以上

F : Xが1つまたはFが2つ以上、合計点が175点未満

C : C C C あたりを想定し——175点以上

B : C B B あたりを想定し——215点以上

A : B A A あたりを想定し——245点以上

A⁺ : A A A⁺ あたりを想定し——265点以上

担当分野数の変更にともない、算出方式の変更があり得る。なお情報実習ⅠとⅡの単位は別であるので、Ⅰの成績が不可であってもⅡは履修できる。

【テキスト】 各担当教員がプリント等を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75121	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	木 村 美 善
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 「統計学、多変量解析法とその応用」

【講義内容】 このゼミでは現代統計学の諸理論をさらに進んで学ぶとともに、コンピュータを活用してその幅広い応用について研究するつもりである。演習Ⅰでは共通のテキスト・論文・資料（英語文献も含む）を学びながら同時にコンピュータを利用して統計的方法の応用について共同研究する。コンピュータによる統計的分析についてはデータ解析とグラフィックスのための対話型環境である「S-PLAS」や「SPSS」などの統計パッケージを利用する。卒論のテーマは統計学や多変量解析法の幅広い応用分野の中から選択してもらい、数名のグループによる卒論研究も奨励したい。研究対象の中には教育・心理や世論調査におけるトピックスも含まれる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75122	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	真 野 芳 久
他の科目との関連	4 年次演習Ⅱおよび卒業研究を履修するための前提科目である。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 異なる曜日に週2回行い、2つの異なるテーマを並行して進める。1つは、プログラミング言語の世界の全体像を把握することを目的として、プログラミングパラダイムによって異なる言語機能の本質を探る。

他の1つは、言語処理系（コンパイラ）の実際を学ぶもので、Cで書かれたC（のサブセット）コンパイラの理解を目的とする。

【講義計画】 いずれのテーマについても輪読形式で進める。

第1のテーマについては、適当なテキスト（未定）を読み進める。手続き型言語に見られる本質的な言語機能から始め、オブジェクト指向型言語、関数型言語、論理型言語へと進む。

第2のテーマについては、プログラミング言語Cの知識が必要であるので、Cの概要説明から始める。その後、Cコンパイラのソースプログラムを順次読み理解していく。

【評価方法】 レポートによって評価する。

- 【テキスト】 第1のテーマ：未定
 第2のテーマ：疋田、石畑『コンパイラの理論と実現』（共立出版、1988）
 〈その付録にあるCーコンパイラ、インタプリタのソースプログラム〉

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75124	情報演習 I	必	3	4	後期	澤 木 勝 茂
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 オペレーションズ・リサーチ

【講義内容】 ORの種々のモデルや手法について確率モデルを中心に勉強する。3年次では、数学的な基礎訓練に重点を置き、特定のテキストの演習問題を次から次ぎへと解く方式でゼミを運営する。マルコフ決定課程とその応用、待ち行列とその応用、ゲーム理論とその応用、ファイナンス工学、信頼性理論などについて卒業論文の指導を受けることができる。

【講義計画】 (1)テキストの演習問題を各自に発表してもらいが、各テーマや章の内容については質疑応答で演習の授業を進める。
 (2)夏期休暇中に3泊4日程度の合宿を行う。
 (3)1年間の演習を通して卒業論文のテーマを見つけるように指導をするので、学生はその心積りで授業に参加してほしい。
 (4)3年次の夏休み期間中に文書清書システム「JLATEX」を修得しておくこと。レポートや卒論はこのJLATEXによるハードコピーのみ受付ける。

【評価方法】 授業中の発表および質疑応答の実績を加味したレポートの成績との総合評価に基づく。

【テキスト】 Shunji Osaki, “Applied Stochastic System Modeling”, SpringerVerlag,1992年刊

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75125	情報演習 I	必	3	4	後期	穴 太 克 則
他の科目との関連	確率モデルは必修である			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 確率モデルとその応用

【講義内容】 確率・確率過程論を縦軸とし、その応用として自然科学・社会科学における確率モデル・最適化モデルを横軸に勉強する。3年次は縦軸を中心に基本的な数学的理解を深めることを目的に、確率論と確率過程論の入門的内容を講義する。

【講義計画】 「理論－例題－演習」のサイクルを繰り返して進める。講義で理論と例題を行い、3～4人のグループ毎に関連する問題に取り組む演習を行う。
 「理論」においては定義・記号・概念・定理・証明を曖昧でなく、意味において明晰に理解する力を鍛錬する。
 「例題」においては理論に沿った具体的な問題を解くモデルを提示する。
 「演習」においては、問題演習を通じて、理に適った思考力と問題解決能力を鍛錬する。
 勉強に対してはひたむきかつ朗らかに取り組む人を歓迎する。

【評価方法】 総合的に評価する。

【テキスト】 確率モデルの初歩のテキストを予定している。参考書も講義で提示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75126	情報演習 I	必	3	4	後期	後 藤 邦 夫
他の科目との関連	情報演習IIを履修するための前提科目			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 通信ネットワークと性能評価

【講義内容】 通信ネットワーク、計算機システム、交通システムなどを題材にとり、システムの性能評価の手法の基礎を学ぶ。演習 I では、OR の 1 分野である待ち行列理論の基礎と簡単なプログラミング演習を行い、演習 II、卒業論文に取り組む能力を養成する。さらに、ネットワークでの情報入手／提供方法と英語の読み書き能力の充実をはかる。

このゼミでは論理面を重視し、計算機は道具として用いるので、主に計算機自体、プログラミング自体に興味を持つ者には不向きである。理論的側面を重視するので英語、微積分、確率の基礎能力が必要である。一方で、プログラミングについては主に宿題として演習を行い講義時には詳しく説明しないので、自分で本を読み勉強する姿勢が不可欠である。また、4 年次では卒業研究のために夏休み中もゼミを行うので、楽をしたい者にとってはこのゼミは不向きである。夏合宿、宴会、スキー合宿等は全員参加を原則とする。電子メールは毎日読むこと。

具体的には、

0. ネットワークアプリケーションの使い方を覚える。英語の各種オンライン文書の読み方。
1. 待ち行列システムの教科書（英語）の購読と、練習問題の解答。（順に発表）
2. 電子メールの発着信、ドキュメント清書など計算機の操作の練習と簡単なプログラミング演習（待ち行列、シミュレーション、通信アプリケーション）。使用言語は、C・Pascal・Perl・Simscrip II. 5（シミュレーション言語）など（宿題中心）。
3. 卒業研究の分野別グループ（性能評価解析、シミュレーション、通信アプリケーション）に分かれ勉強会を行う（ゼミ時間外にもやります）。
などを取り扱う。その他ゼミに関する情報は、URL: <http://www.nanzan-u.ac.jp/~goto> から探して下さい。

【講義計画】 ガイダンス

1. オリエンテーション、資料配布、各種委員の決定
情報サービスの利用方法。
2. 教科書の輪講（確率過程、待ち行列）
WWWサーバ用自己紹介ページの作成方法。電子メールの利用法（新歓コンパ??）
- 3-11. 輪講・教科書練習問題の解答
はじめてのCプログラム、メイリングリストの利用法
Cの関数の使い方、Unixオンラインマニュアルの読み方
日本語Texによる住所録の完成、ソースコードデバグダbxの使い方
- 12-13. 性能評価の手法、旧年度卒業論文の輪読（分野別勉強会の開始）
14. シミュレーション（Simscrip II. 5）入門
15. Objective-cの概要
16. マルチメディア通信入門
17. socketを用いたプログラミング入門
18. 卒論テーマの分野の選択
- 19-25. 分野別勉強会の報告

【評価方法】 簡単なプログラミング練習のレポートなど、8 回程度、
レポート試験 2 回：教科書の練習問題の解答およびその清書、卒業研究の成果をまとめ清書
その他、出席状況、発表の出来により総合評価する。

【テキスト】 教科書：M. Schwartz, Telecommunication Networks: Protocols, Modeling and Analysis, Addison-Wesley, 1987.
その他、適宜資料を配布、ネットワークでの資料入手を指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75127	情報演習 I	必	3	4	後期	松 田 眞 一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 応用統計学

【講義内容】 現代統計学の応用範囲は広い。様々な分野での統計学の実態をつかむため文献調べとその発表を中心として進めていく。また、統計的手法の実践としてプログラミングも含めたコンピュータの利用を検討していく。最終的にはそれらを総合して卒業論文に向けたテーマを探していくのが目的である。

【講義計画】 基本的にはグループで研究・発表してもらう。学生の自主性を尊重して取り扱うテーマは特に絞らず、統計学に関するものを広く扱う。テーマ選定の期間をおいた後はグループごとの研究・発表・討論を数回繰り返し、最後にそれぞれの選んだテーマに関するレポートを提出してもらう。

【評価方法】 発表とレポートを総合して評価する。

【テキスト】 特にこちらからは指定しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75128	情報演習 I	必	3	4	後期	野 呂 昌 満
他の科目との関連	情報処理、プログラミング、プログラミング言語処理、オペレーティングシステム、ソフトウェア科学、ソフトウェア工学、通信システム、アルゴリズム論			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 オブジェクト指向計算とその応用について研究するための基礎を学ぶ。

【講義計画】 オブジェクト指向関係の本を輪講する。C++ やSmalltalk80など言語の話を入門として扱う。

【評価方法】 順番で発表を行って貰う。そのさいの理解の度合い、わかりやすさなどを成績をつける判断基準とする。

【テキスト】 適宜指定。C++ by B.Strustrup等

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75129	情報演習 I	必	3	4	後期	鈴 木 敦 夫
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 オペレーションズ・リサーチ (OR)

【講義内容】 線形計画法、ネットワーク計画法、整数計画法、非線形計画法をテキストに従って学びながら、OR的なアプローチ、ものの見方を身につけていく。4年次には、それを生かして、身近な問題をORの手法を用いて解き、卒論の題材としていく。昨年度までの卒論のテーマをいくつかピックアップすると；名古屋市の公共交通網に関する研究、ボロノイ図を用いた最適配置問題の研究、交通流の割当問題の研究、最適配送ルートの研究、駅の位置決め問題の研究。

【講義計画】 線形計画法（6週）、ネットワーク計画法（2週）、整数計画法（2週）、非線形計画法（2週）の予定。

講義は輪読形式である。当番の学生は十分な予習が必要である。予習が十分でないと見なされた学生は、低い評価を与えられるであろう。

【評価方法】 当番時の発表の出来と、学期末のレポートで評価する。

【テキスト】 H.M.ワグナー著、森村、伊理監訳、鈴木、長谷川訳 『オペレーションズ・リサーチ入門1』（培風館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75130	情報演習 I	必	3	4	後期	宮 元 忠 敏
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 情報科学に興味を持つ学生に対し、情報科学の理論的側面から協力したいと思う。この演習では特に論理数学の基礎を学びたい。まず、代数的構造（集合、関係、群、環、体、束、ブール代数）、命題論理（完全性、ノーマルフォーム、タブロー）を学習する。一階述語論理のモデル論的側面（エレメンタリーサブストラクチャー、コンパクトネス）と形式体系（完全性、不完全性）としての側面との両方をバランス良く学習したいと思う。授業は演習中心の講義形式で進める。より良い理解を求めて、教室の内外での議論、レポート研究、実験などを要求する。ある程度の抽象度をもったものに挑んでもらいます。

【テキスト】 1. A Mathematical Introduction To Logic, Enderton, Academic Press.
2. First-order Logic and Automated Theorem Proving, Fitting, Springer-Verlag
3. 小倉・高濱『情報の論理数学入門』（ブール代数から述語論理まで）（近代科学社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75146	情報演習 II	必	4	4	通年	穴 太 克 則
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 確率モデルとその応用

【講義内容】 3年次の情報演習 I での確率・確率過程編を基礎として、その応用的内容である自然科学・社会科学に現れる確率モデル・最適化モデルを勉強する。当然のことながら「卒業研究」とリンクする。

【講義計画】 「理論－応用モデル－演習」のサイクルを繰り返して進める。理論と応用モデルを講義し、3～4人のグループ毎に関連するモデルに関する問題に取り組む演習を行う。
「理論」においては定義・記号・概念・定理・証明を曖昧でなく意味において明晰に理解する力を鍛錬する。
「応用モデル」においては、現象を数学という言葉を用いて、理論に沿って定式（モデル）化し解析する例を提示する。
「演習」においては、現象を確率モデルというまなざしで捉え、定式（モデル）化する力と自らの頭を使って解析する力と意味を吟味する力を鍛錬する。

【評価方法】 総合的に評価する。

【テキスト】 現在未定。参考書は講義で提示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75147	情報演習 II	必	4	4	通年	後 藤 邦 夫
他の科目との関連	原則として卒業研究とともに履修する。「通信システム I・II」「シミュレーション」を同時あるいはすでに履修していることがのぞましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 通信ネットワークと性能評価

【講義内容】 「卒業論文」とともに卒業研究のための講義である。「卒業論文」では、個人指導を中心とするのに対し、ゼミとしてのまとまりのもとに、通信ネットワーク、計算機システム、交通システムなどに関して、ゼミ生が各々自分の選択した課題に関して発表を行う。
卒業研究のために夏休み中もゼミを行うので、染をしたい者にとってはこのゼミは不向きである。夏合宿等は全員参加を原則とする。例えば就職活動のためとは言え、欠席は欠席であり、欠席した時

は必ずその分の勉強を自分で補うこと。電子メールは毎日読むこと。

- 【講義計画】 ガイダンス
1. オリエンテーション、資料配布、各種委員の決定
 - 2-4. 第1回発表（各自が卒論でやりたいことについて）
 - 5-7. 第2回発表（各自の卒論テーマと具体的見通しについて）
（卒論テーマの決定と届出）
 - 8-10. 第3回発表（各自の卒論における具体的問題解決の方法、練習課題の進展状況について）
 11. 卒論の書き方、中間発表の原稿作成法、発表の方法
夏休み——サブゼミ（各グループ6回程度、各自の問題解決のための勉強会）
9月上旬に夏合宿（演習Ⅰと合同、ゼミ内卒論中間発表会）
卒業論文中間発表会（学科）
 13. オリエンテーション、中間発表会の反省
 14. 卒論目次作成
 - 15-18. 第4回発表
 19. 第1回卒論下書き提出
 - 20-21. 第5回発表
 22. 第2回卒論下書き提出
 23. 個人指導

【評価方法】 卒業研究のゼミ内での中間報告（各自年間5回程度）
上記課題（レポート）、その他の宿題、出席状況、発表の出来により総合評価する。

【テキスト】 適宜資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
75148	情報演習Ⅱ	必	4	4	通 年	野 呂 昌 満		
他の科目との関連	演習Ⅰ、その他情報処理関連科目			他学科履修	不可	重複履修	不可	

【副 題】 オブジェクト指向計算

【講義内容】 卒業論文と緊密に関連する内容を取り上げる。卒業研究を行なうために必要な技術・知識を取り上げ説明する。

【講義計画】 発表形式と講義形式を併用する。毎回講義の前までに疑問点をまとめ、それについて講義形式で解説・説明した後、発表形式にし、質疑応答を含めて疑問点の解消を図る。

【評価方法】 毎回必ず出席すること。卒業論文と関連した内容なので卒業論文と同等の成績をつける。

【テキスト】 各講師が配布するプリント等。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
75167	卒業研究	必	4	4	通 年	後 藤 邦 夫		
他の科目との関連	原則として情報演習Ⅱとともに履修する。「通信システムⅠ・Ⅱ」「シミュレーション」を同時あるいはすでに履修していることがのぞましい。			他学科履修	不可	重複履修	不可	

【副 題】 通信ネットワークと性能評価

【講義内容】 「演習Ⅱ」とともに卒業研究のための講義である。「演習Ⅱ」では、ゼミとしてのまとまりのものと、ゼミ生が各々自分の選択した課題に関して発表を行うのに対し、「卒業論文」では、個人指導を中心とする。

卒業論文の分野は、3つに大別できる。95年度に続き、今年度は特に実験高速通信網を利用した、面白く役に立つインターネットアプリケーションの開発、分散情報サーバの最適配置について実証的研究を行なうプロジェクトを継続する。

1. 解析的手法による性能評価（数学、確率、プログラミング、マルコフ連鎖、通信ネットワーク）
2. シミュレーションによる性能評価
（モデリング、確率、プログラミング、通信、交通システム）
3. 通信ソフトウェア（マルチメディア、プログラミング、ネットワーク）

個人指導、連絡は電子メールで行なうので、電子メールは毎日読むこと。

【講義計画】 （情報演習Ⅱの日程参照のこと）

【評価方法】 学科で行なう卒業論文中間発表会、卒業論文公聴会、卒業論文により総合評価する。

【テキスト】 適宜資料を配布する。オンラインでも提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75401 75402 75411 75412	解析Ⅰ 1・Ⅰ 2・Ⅱ 1・Ⅱ 2	選・必	1	各2	前期 後期	松 澤 忠 人
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 基礎微積分学

【講義内容】 微分積分は線形数学と並んで数学の基礎をなすものであるが、それ自体理論としても非常に美しい側面をもっている。又、応用上も非常に重要である。
本講義では、できるだけ原理、核心を直感的につかめるように配慮する。問題演習は、論理的思考について、具体的に訓練する機会となるので、授業中の問題演習にも重点をおきながら進むこととする。

【講義計画】 下記のような順序で進む。
 ①実数の性質
 ②数列
 ③微分、導関数
 ④積分
 ⑤微積分法の応用
 ⑥偏微分法
 ⑦接平面
 ⑧関数の極値（多変数の場合）
 ⑨重積分
 ⑩線積分とグリーンの定理

【評価方法】 各期末の定期試験と講義中の演習も重視する。

【テキスト】 松澤・原・小川著、理工系の『基礎微積分学』（学術図書）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75421 75422 75431 75432	線形代数Ⅰ 1・Ⅰ 2・Ⅱ 1・Ⅱ 2	選・必	1	各2	前期 後期	太 田 稔
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 行列と行列式の基礎理論

【講義内容】 前期：21世紀の日本の人口統計で多元1次連立方程が使われることから、その行列表示に言及し、行列の算法の意義を述べ、結合法則などの意味とその証明をする。掃き出し法による連立方程式の解き方から入り、行列の基本変形、階数、逆行列をやる。転置行列や逆行列の積を求める。行列式、クラメル公式をやる。

後期：行列式の因数分解や、行列式の積の公式など前期の残りをやり、3次元ベクトル空間に入り、外積をやる。線形写像特に直交変換による回転軸を求める。2次形式で書かれた曲面を直交変換によって、標準形になおし、その曲面がどんな2次曲面か判定する。1次変換や2次曲面で近似できる世界について触れる。

【講義計画】 前期：導入と連立方程式行列表示、行列の積(90分以下同)。行列の結合法則等と転置行列の積。正則行列と逆行列の積、演習(以下加)。掃き出し法と基本変形、逆行列の求め方。階数、連立1次方程式の解法。置換、転倒の数、行列式の定義。行列式の基本的性質。余因数展開、逆行列表示。クラメルの公式。行列の分割、その積。三角行列式、分割行列式。予備テスト。
後期：剰余の定理と行列式の因数分解。行列式の列の置換、行列式の積公式。2次元ベクトル空間から3次元ベクトル空間へ。外積と平行六面体の体積。直交変換と回転軸。2次形式と座標軸の回転。固有方程式とその解法。例題演習。2次曲面。局所的に線形変換である変換、局所的に2次曲面である曲面。予備試験。

【評価方法】 前期：行列の積の結合法則の証明。掃き出し法による連立方程式の解と逆行列の計算。クラメル公式が使えるかどうか。行列式的应用問題。
後期：行列の積の行列式公式の証明。行列式の因数分解計算。2次曲面の標準形計算とそのグラフ。線型代数の応用問題。

【テキスト】 尼野一夫他4名共著『線形代数入門』（学術図書出版社発行、1990）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
75441 75442	確率論1・2	選・必	1	各2	前期	澤木勝茂 穴太克則
他の科目との関連					他学科履修可	重複履修不可

【講義内容】 確率論の基礎的な知識を学び、統計的方法Ⅰ、Ⅱ、オペレーションズ・リサーチ概論Ⅰ、Ⅱを履修するための学力をつけることが本講義の目標である。特に、3、4年次で統計学やオペレーションズ・リサーチを学ぶ希望を持っている学生は本講義を履修することを強く勧める。
講義では、テキストに従い、以下に示す話題について、数多くの練習問題を解きながら学んでゆく。
(1)確率の定義
(2)確率の直接計算
(3)確率の基本性質
(4)独立試行
(5)確率変数

【評価方法】 評価は学期末に行なう筆記試験による。

【テキスト】 現代数学レクチャーズA-3
武隈良一著『確率論』（培風館）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
75451	統計的方法Ⅰ1	選・必	1	2	後期	木村美善
他の科目との関連					他学科履修可	重複履修不可

【講義内容】 現代統計学の基本的概念と手法について講義し、統計的なものの見方・考え方を理解してもらうことを目的とする。統計的データの記述法について学んだ後、標本に基づく推測統計学へと進む。

【講義計画】 1. 統計的方法とその意義
2. 度数分布票と各種統計値
3. 相関と回帰
4. 時系列データ
5. グラフ表現
6. 確率と確率変数

7. 多変量確率変数
8. 標本分布

【評価方法】 リポート20%、試験80%の割合で評価する。

【テキスト】 白旗慎吾著『統計解析入門』（共立出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75452	統計的方法Ⅰ 2	選・必	1	2	後期	松 田 眞 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 「確率論」を引き継ぎ、確率の諸問題から始め、記述統計学の学習に入る。情報化社会においてデータに基づく推論の根幹を成す現代統計学の基本的理論とその考え方について理解してもらうことが目的である。主として、連続型確率変数の定義と応用、データの整理・要約について述べる。

【講義計画】 1 項目をだいたい 1 回の講義で進める。

1. 確率変数と期待値（復習）
2. 大数の法則
3. 幾何学的確率と連続型確率変数
4. 連続型確率変数の平均・分散
5. 正規分布
6. 中心極限定理
7. データの整理と度数分布表
8. 代表値と散らばりの指標
9. その他の指標と相関・回帰
10. 重回帰と順位相関係数
11. 時系列データ

途中に適宜、小テストをはさむ。なお、主体的に学習を進めてもらうため講義内でいくつか課題を出し、レポートも提出してもらう。

【評価方法】 定期試験 8 割、小テスト 2 割で評価する。なお、レポートは最大 2 割の追加評価に用いる。

【テキスト】 「確率論」から引き続いた本と「統計的方法Ⅰ・Ⅱ」で通して用いる本の 2 冊を教科書として使用する。
武隈良一著『確率』（培風館）
白旗慎吾著『統計解析入門』（共立出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75461 } 75463	情報処理Ⅰおよび演習 1～3	選・必	1	各3	前期	(講義)村 本 正 生 (演習)村 本 正 生 真 野 芳 久 野 呂 昌 満
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 情報管理学生が初めて計算機を学ぶ授業科目である。この授業は、半期 2 単位の科目である。講義と演習からなっており、全員 1 クラスで、講義を聞くことと、3 クラスに分割したクラスでの演習を受けることと両方が要求される。
講義では、UNIXの使い方を中心にして、4 年間動具として計算機を使いこなすための基礎を扱う。演習では実際に計算機を使って知識を確認する。

【講義計画】 以下の内容について講義を受け、さらに演習を受けることになる。

ワークステーションとネットワーク
計算機のハードウェア
計算機のソフトウェア
オペレーティングシステム
ファイル

プログラミングの基礎
計算機内部でのデータ表現

【評価方法】 講義では最後に試験を実施する。演習では何回かのレポートを要求する。評価は、試験と演習でのレポートとで総合評価する。

【テキスト】 鬼頭繁治『ユーザのためのUNIX』（サイエンス社）¥2,781

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75471 ） 75473	情報処理Ⅱおよび演習 1～3	選・必	1	各3	後 期	(講義)野 呂 昌 満 (演習)村 本 正 生 真 野 芳 久 野 呂 昌 満
他の科目 との関連	情報処理Ⅰおよび演習履修で得た知識を基に、プログラミングⅠ、Ⅱの基礎を学ぶ			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 プログラミングの基礎を講義する。プログラミング言語Pascalを使って、簡単なアルゴリズムのプログラムを書き、コンパイル、実行できるようにすることを目指す。演習では、毎回問題を取り上げ、そのプログラムを設計・作成することでプログラミングの能力の向上を目指す。

【講義計画】 以下の内容で講義を行ない（それぞれについて 12回）、対応する実習を行なう。

1. 代入文・実数型
2. 選択・整数型・論理型
3. 繰り返し
4. 配列（1次元）
5. 配列（2次元）
6. 手続き・関数
7. 文字型
8. 集合型
9. ファイル
10. 文字列型

【評価方法】 演習は適宜レポートを課する。すべて提出が単位取得の条件。講義は定期試験を行なう。テストではおもにプログラミングの知識について考査する。

【テキスト】 真野芳久著『Pascalプログラミングの基礎』（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75501 75502	解析Ⅲ 1・2	選・必	2	各2	前 期	佐々木克巳
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ベクトル解析の基礎を講義する。この理論は、現実の物理学および幾何学的な問題を数学的に整理するための理論としての役割を果たしている。

【講義計画】

1. 序
2. 行列式の復習
3. 空間のベクトルの復習
4. ベクトルの関数の微分
5. 曲線
6. 曲率、曲率半径
7. 曲面
8. 勾配
9. 発散・回転
10. 線積分
11. 面積分
12. 積分の公式

【評価方法】 定期試験、出席、毎週の講義の理解度などが評価の対象である。詳しい評価方法は第1週目の講義で説明する。

【テキスト】 毎週プリントを配布するので特に指定しない。予習は以下の文献を用いて行うとよい。
長谷川正之、稲岡 毅『ベクトル解析の基礎』（森北出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75511 ） 75514	情報数理Ⅰ 1・2 情報数理Ⅰ 3・4	選・必	1 2	各2	後 期 前 期	佐々木克巳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 情報数理Ⅰでは、現代数学における基礎的な知識の習得を目的としている。具体的には「集合」、「写像」、「関係」の3つを取りあげて、これらを丁寧に学んでいく。また、このような基礎的な知識をきちんと身につけることにより、より広い範囲の数学や、情報科学などの分野の理解を深められることも期待している。

【講義計画】

1. 序
2. 論理のことば（日常のことばと数学のことば）
3. 論理のことば（すべて、ある、～でない）
4. 集合（集合の表し方、など）
5. 集合（集合の演算）
6. 集合（証明の例）
7. 集合（集合の演算の拡張）
8. 写像（写像とは？、写像の表し方）
9. 写像（単射、全射、全単射）
10. 写像（逆写像）
11. 関係（同値関係）
12. 関係（商集合）

【評価方法】 定期試験、出席、毎週の講義の理解度などが評価の対象である。詳しい評価方法は第1週目の講義で説明する。

【テキスト】 毎週プリントを配布するので特に指定しない。予習は以下の文献を用いて行うとよい。
細井 勉『集合・論理』（共立出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75521	オペレーションズ・リサーチ概論Ⅰ	選・必	2	2	前 期	澤 木 勝 茂
他の科目との関連	数理計画法Ⅰ・Ⅱ，確率モデルなどの前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 科学的意思決定の基礎

【講義内容】 企業における種々の意思決定のための手法とモデルについて平易に解説する入門コースである。問題解決のための数量的な分析方法と現実の問題を数学的モデルとして定式化する手順や考え方について理解を深めるように講義内容について工夫をしたいと考えている。

【講義計画】 内容として主なトピックスは次のとおりである。
 (1)オペレーションズ・リサーチとは何か
 (2)線形計画法とその応用
 (3)動的計画法とその応用
 (4)在庫管理
 上記のトピックスについて講義を行なった後で、具体的な例題や演習問題を解いたり宿題を課すことになる。

【評価方法】 試験と宿題の成績によって評価をしているが、その比重は概ね7対3を予定している。出席は評

価にカウントしていないが、出席率と成績との正の高い相関関係を過去のデータは示している。

【テキスト】 小和田・沢木・加藤『OR入門——意思決定の基礎』（実教出版、1993）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75531	統計的方法Ⅱ	選・必	2	2	前期	松 田 眞 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 「統計学的方法Ⅰ」の内容を受け継ぎ、推測統計学の学習をさらに進める。情報化社会においてデータに基づく推論の根幹を成す現代統計学の基本的理論とその考え方・応用の仕方について理解してもらうことが目的である。主として、正規分布を中心とした推定・検定および線形回帰分析について述べる。

【講義計画】 項目をだいたい1回の講義で進める。

1. 確率と確率変数（復習）
2. 積率母関数・確率母関数と確率分析
3. 標本分布（カイ二乗分布、t分布、F分布）
4. 推定（最尤推定量）
5. 検定の基礎
6. 正規分布の平均の検定（1標本問題、分散既知）
7. 正規分布の平均の検定（1標本問題、分散未知）
8. 正規分布の平均の検定（対応のある場合、大標本）
9. 正規分布の平均の検定（2標本問題）
10. 比率の解析
11. 回帰と相関

途中に適宜、小テストをはさむ。なお、主体的に学習を進めてもらうため講義内でいくつか課題を出し、レポートも提出してもらう。

【評価方法】 定期試験8割、小テスト2割で評価する。なお、レポートは最大2割の追加評価に用いる。

【テキスト】 「統計学的方法Ⅰ」に引き続き、以下の本を教科書として使用する。
白旗慎吾著『統計解析入門』（共立出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75541 75542	プログラミングⅠ 1・2	選・必	2	各2	前期	真 野 芳 久 野 呂 昌 満
他の科目との関連	「情報処理Ⅱおよび演習」に引き続く科目で、ここで学んだことを基に「プログラミングⅡ」でさらにプログラミングについて深く学ぶ。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 プログラミング言語Pascalを用いたプログラミングに関して、「情報処理Ⅱおよび演習」をさらに発展させた内容を学ぶ。
ここで現われる新たな言語機能として、集合型、列挙型、レコード型、ポインタ型を使ったリスト構造や木構造等の動的データ構造、等がある。
これらの言語機能の学習、および実際のプログラミングを通してそれらを活用する手法を学ぶ。また、アルゴリズムやデータ構造、プログラミングの考え方についても、触れる。

【講義計画】 上述の言語機能について、その意味するところ、使い方などを、プログラム例を示して、順次学んでいく。
必要に応じて応用問題にも取り組み、それに関連してアルゴリズムやデータ構造の話題にも触れる。
プログラミングを理解しその能力をつけるには、講義で学んだことを理解するだけではなく、自ら積極的にプログラミング作業を行なうことも必要である。講義の中でプログラミング実習を行なう時間的余裕はほとんどなく、実習は各自の自習時間の中で行なってもらう。そのために、頻繁に課題を出す。十分な自習時間が必要である。

【評価方法】 レポート課題と定期試験によって評価する。レポート課題では主にプログラミング能力を評価し、定期試験では主にプログラミングに必要な知識を評価する。

【テキスト】 真野芳久著『Pascalプログラミングの基礎』（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75551 75552	プログラミングⅡ 1・2	選・必	2	各2	後期	真 野 芳 久 野 呂 昌 満
他の科目 との関連	「プログラミングⅠ」までに学んだPascalプログラミングに 関する知識を前提とする。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Pascalプログラミングに関する知識を前提として、大規模プログラミングに必要な考え方、知識を学ぶことを目標とする。

ここに含まれる内容として、

- ・基本的なアルゴリズムとデータ構造
- ・大規模プログラミングの問題点の把握
- ・プログラミング方法論に関する諸概念
- ・データ抽象、オブジェクト指向などに基づくプログラム設計法

が含まれる。

実際のプログラミングを通して、これらの考え方を学び応用する。

【講義計画】 Pascalプログラミングの復習および応用から始める。この過程を通して大規模プログラミングの問題点を理解する。問題点を克服するための新たな考え方を順次紹介し、それらを利用したプログラム設計、プログラミングを行なってもらうことで、理解を深める。必要に応じて、アルゴリズムやデータ構造の話題にも触れる。プログラミングを理解しその能力をつけるには、講義で学んだことを理解するだけではなく、自ら積極的にプログラミング作業を行なうことも必要である。講義の中でプログラミング実習を行なう時間的余裕はほとんどなく、実習は各自の自習時間の中で行なってもらう。そのために、頻繁に課題を出す。十分な自習時間が必要である。

【評価方法】 レポート課題と定期試験によって評価する。レポート課題では主にプログラミング能力を評価し、定期試験では主にプログラミングに必要な知識を評価する。

【テキスト】 真野芳久著『Pascalプログラミングの基礎』（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75601	オペレーションズ・リサーチ概論Ⅱ	選	2後～4	2	後期	澤 木 勝 茂
他の科目 との関連	決定分析、確率モデルへの入門科目			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 科学的意思決定の基礎

【講義内容】 前期のオペレーションズ・リサーチ概論Ⅰに引続く科目である。前期では確定的な状況の下での意思決定の手法とモデルを中心に講義したが、後期では確率的（不確実）な状況の下での意思決定モデルを中心に講義する。しかし、講義の内容としては前期とは独立であるので、OR概論Ⅰの履修を前提とする必要はない。

【講義計画】 講義でカバーするテーマは次のとおりであり、各テーマは概ね1ヶ月（4回～5回）程度の時間配分を考えている。

- (1)意思決定分析とゲームの理論
- (2)日程計画（PERTとCPM）
- (3)待ち行列の理論

講義の進捗状況によっては非線形計画法や確率計画法についても講義する予定である。

【評価方法】 試験と宿題の成績によって評価する。前期の欄も参照されたい。

【テキスト】 前期と同一のテキストを使用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75605	アルゴリズム論	選	2後~4	2	後期	鈴木 敦 夫
他の科目との関連	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 アルゴリズムを設計、評価するための基礎的な知識を修得するのが講義の目標である。まず、アルゴリズムの評価に必要な数学的準備をし、アルゴリズムの代表的な手法を順次紹介していく。

【講義計画】 以下の項目について、各々2週間ずつ講義を行なう。また、必要に応じて、関連する分野の話題を挿入することもある。

- ・アルゴリズムとは
- ・アルゴリズムの漸近的評価
- ・算法の紹介（貪欲算法）
- ・算法の紹介（分割統治法）
- ・算法の紹介（動的計画法）
- ・算法の紹介（グラフの探索）

【評価方法】 レポート40%、学期末に行なう試験60%、課題（レポート）：学期中に2回

【テキスト】 授業中にプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75607	応用数学A	選	2後~4	2	後期	春 藤 修 二
他の科目との関連	「情報数理Ⅰ」の知識を前提とする			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 「関係の理論」

【講義内容】 「関係の一般論と順序関係、および順序構造と代数系を結びつける束（そく）の理論を取り扱う。余裕があれば論理代数についてもふれたい。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果によるが、授業において若干演習の要素を取り入れるつもりである。

【テキスト】 小野寛晰『関係の代数』（シリーズ新しい応用の数学6 教育出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75611 75612	情報数理Ⅱ 1・2	選	2後~4	各2	後期	佐々木 克 巳
他の科目との関連	情報数理Ⅰの知識を必要とする。			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 情報数理Ⅰにひきつづいて、「順序」、「代数系」について講義する。これらの理論も、情報数理Ⅰで学んだ理論と同様に純粋数学として基本的なものである。また、これらは最近の情報科学の理論の進展にもなって、さらにいろいろな面に応用されており、実際の状況を数学的に整理するための理論としての役割も果たしている。

【講義計画】

1. 序
2. 順序（順序の定義と順序の表し方）
3. 順序（2つの順序が同じであるということ）
4. 順序（上限と下限）
5. 束（束の定義）
6. 束（ブール束）
7. 代数系（代数系と半群）

8. 代数系（2つの代数型が同じであるということ）
9. 代数系（準同形定理）
10. 群（単位元と逆元）
11. 群（剰余群とその演算）
12. 体

【評価方法】 定期試験、出席、毎週の講義の理解度などが評価の対象である。詳しい評価方法は第1週目の講義で説明する。

【テキスト】 毎週プリントを配布するので特に指定しない。予習は以下の文献を用いて行おうとよい。
 第1回～第6回 細井 勉『集合・理論』（共立出版）
 第7回～第12回 細井 勉『情報科学のための代数系入門』（産業図書）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75615	確率モデル	選	2後～4	2	前期	穴 太 克 則
他の科目との関連	確率論、オプションズ・リサーチ概論Ⅰ・Ⅱの履修を前提とする。			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 確率モデル・最適化モデルを紹介し講義する。モデルに重きを置き、必要な数字は適時解説する。

【講義計画】 次を予定している。
 1. ミクロ経済学に現れる確率モデル
 2. マネジメントに現れる確率モデル
 3. 数理ファイナンスに現れる確率モデル
 4. ソフトウェア工学に現れる確率モデル
 5. 社会現象に現れる確率モデル
 6. 心理学に現れる確率モデル
 7. その他
 適時レポートを課す。

【評価方法】 筆記・出席・レポートにて評価する。

【テキスト】 指定しない。参考書は講義で提示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75617	幾何学概論Ⅰ	選	2後～4	2	前期	白 岩 謙 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 1. 2次曲線・2次曲面の分類
 2. 平面曲線と空間曲線
 3. ユークリッド幾何学と非ユークリッド幾何学

【講義計画】 幾何学における定義や定理を例題や演習問題を通じて理解してもらう。また、数学的な考え方、特に幾何学の考え方の歴史的な発展を理解してもらうようにしたい。

【評価方法】 筆答試験の成績によって評価する。また、欠席過多の学生には単位を与えない。

【テキスト】 特に使用しない。講義の際、参考書をあげる。また、簡単な講義メモを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75619	幾何学概論Ⅱ	選	2後~4	2	後期	白 岩 謙 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

- 【講義内容】 1. 曲面と接ベクトル
2. 基本形式
3. 曲率
4. 測地線

【講義計画】 3次元空間の曲面の微分幾何学的考察を行うことによって、現代幾何学の考え方への入門とする。

【評価方法】 筆記試験の成績によって評価する。また、欠席過多の学生には単位を与えない。

【テキスト】 特に使用しない。講義の際、必要な参考書をあける。また、簡単な講義メモを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75629	システム工学Ⅱ	選	2後~4	2	集中	杉 原 厚 吉
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 システムの信頼性の評価とその向上技術

【講義内容】 ハードウェアよりソフトウェアの側面に重点を置いて、システムの信頼性を損なう原因とその対策について考える。特に、コンピュータでの数値計算誤差が原因となって生じる信頼性の低下に焦点を当てる。コンピュータでは数値は有限の精度でしか表現されないため、数値誤差が必ず生じる。この誤差がほんのわずかであっても、場合によってはとんでもない結果をもたらすことがある。そのような現象を、統計分析システム、数値解析システム、図形処理システムなどを例にとって分析し、それに対処するための諸技術を学ぶ。

【講義計画】 上記の内容を普通の講義形式で解説するとともに、誤差がもたらす悲惨な現象とその対策を体験するための演習も行なう。演習ではコンピュータプログラムを書いて走らせる課題も与えるから、何でもよいからコンピュータ言語を一つは使えることが、履修の条件である。

【評価方法】 演習のレポートおよび試験によって採点する。講義の出欠はとらない。

【テキスト】 当日配布するプリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75631	システム工学Ⅲ	選	2後~4	2	集中	杉 原 厚 吉
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 システムの効率の評価とその向上技術

【講義内容】 コンピュータを含んだ形で構成されるシステムの効率の良さの測り方と、効率の良いシステムの作り方を学ぶ。ここで大切なことは、システムを作ったあとでその効率を測るのではなく、「こんなシステムを作ってみよう」と構想を練る段階でその効率が見通せることである。そのために、まず基礎となる計算量の理論を学び、次に効率の良いシステムを作るための基本的な諸技術を学ぶ。また、どんなにがんばっても効率の良いシステムは作れないことのわかっている難問を逆に利用すると、「鍵を公開しても解読されない暗号法」や「パスワードを告げなくても正規のパスワード所有者であることを相手に納得させる方法」など、常識に反した情報保護技術が作れることも見る。

【講義計画】 上記の内容を普通の講義形式で解説するとともに、効率の良いシステムと効率の悪いシステムの差を体験するための演習も行なう。演習ではコンピュータプログラムを書いて走らせる課題も与えるから、何でもよいからコンピュータ言語を一つは使えることが、履修の条件である。

【評価方法】 演習のレポートおよび試験によって採点する。講義の出欠はとらない。

【テキスト】 当日配布するプリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75637	制御理論	選	2後~4	2	前期	鈴木正之
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 「最適制御理論の概説と社会システムに対する応用」

【講義内容】 ダイナミカルシステムの表現方法としての微分方程式の簡単な解説を最初に行ない、ダイナミカルシステムとして制御システムを定義する。最適制御問題は、このダイナミカルシステムを人間が決めた目的（例えば利潤を最大にすることなど）に対し最適となる制御（方策）を決定することである。この様な最適制御を決定する方法として、変分法、ポントリヤギンの最大原理、ダイナミックプログラミング（D.P.）等について解説する。
最後に最適制御理論の応用例として、社会システムにおける最適決定の例を述べる。

【講義計画】 上述の目標に向けて
①関数の最大最小——静的最適制御問題
②ダイナミカルシステムの表現
③古典変分法
④ポントリヤギンの最大原理
⑤ダイナミックプログラミング
⑥社会システムのダイナミカルシステム表現
⑦社会システムにおける最適決定
というプログラムにしたがって講義を行う。

【評価方法】 レポート及び試験により評価を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75639	情報論理 I 1	選	3~4	2	前期	春藤修二
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 「論理とは何か——記号論理入門」

【講義内容】 計算機科学が人間の思考方法を問題にするまで進展した現在、論理学はこれ迄の、数学の一部、又は哲学の一部としての位置から、多くの人々の基礎教養となったといえよう。論理と数学との古くからの関わりから始め、19世紀末のいわゆる“数学の危機”の時代を経て論理学が数学化したことを、伝統的論理学とクラス論理を概観しつつ確認する。現代論理学の入り口まで到達することを目標とする。

【講義計画】 次の項目に従って授業を進める予定である。
I. 論理と数学——論理も数学も古い学問であるが、ユークリッド原論にはアリストテレスを始めとして論理学の成果が色濃く反映している。
II. 集合と論理——集合演算と論理、カントールの集合論、対角線論法、カントールのパラドクス
III. 数学の危機——ラッセルのパラドクス、論理主義・直観主義・形式主義
IV. 伝統的論理学——アリストテレスの三段論法、妥当な格式
V. 記号化とクラス論理——ブールの業績、展開式とヴェン図
VI. 現代論理学——命題論理の意味論
予備知識を前提としないので他学科の学生の履修も可能である。

【評価方法】 基本的に定期試験の結果による。

【テキスト】 特に指定するものはありません。参考書については随時紹介します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75640	情報論理 I 2	選	2後~4	2	後期	春 藤 修 二
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 [論理とは何か——記号論理入門]

【講義内容】 計算機科学が人間の思考方法を問題にするまで進展した現在、論理学はこれ迄の、数学の一部、又は哲学の一部としての位置から、多くの人々の基礎教養となったといえよう。論理と数学との古くからの関わりから始め、19世紀末のいわゆる“数学の危機”の時代を経て論理学が数学化したことを、伝統的論理学とクラス論理を概観しつつ確認する。現代論理学の入り口まで到達することを目標とする。

【講義計画】 次の項目に従って授業を進める予定である。
I. 論理と数学——論理も数学も古い学問であるが、ユークリッド原論にはアリストテレスを始めとして論理学の成果が色濃く反映している。
II. 集合と論理——集合演算と論理、カントールの集合論、対角線論法、カントールのパラドクス
III. 数学の危機——ラッセルのパラドクス、論理主義・直観主義・形式主義
IV. 伝統的論理学——アリストテレスの三段論法、妥当な格式
V. 記号化とクラス論理——ブールの業績、展開式とヴェン図
VI. 現代論理学——命題論理の意味論
予備知識を前提としないので他学科の学生の履修も可能である。

【評価方法】 基本的に定期試験の結果による。

【テキスト】 特に指定するものはありません。参考書については随時紹介します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75641	情報論理 II	選	3~4	2	後期	春 藤 修 二
他の科目との関連	情報論理 I を前提とする			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 [現代論理学入門]

【講義内容】 「情報論理 I」の内容を引き継ぎ、現代論理学を命題論理、述語論理の順に講義する。最後に多値論理、様相論理など“古典論理”以外のいろいろな論理について概観する。

【講義計画】 次の項目に従って授業を進める
I. 命題論理の意味論——恒真式、標準形
II. 命題論理の構文論——ヒルベルト流公理体系
III. 命題論理の構文論——ゲンツェン流公理体系
IV. 命題論理のメタ理論——無矛盾性、完全性
V. 述語論理——数学の形式化、伝統的論理学への適用
VI. 述語論理の構文論——冠頭標準形
VII. 述語論理の意味論と完全性
VIII. いろいろな論理——モデル理論
たとえばド・モルガンの法則や排中律といった“論理的真理”を、何かの基底から導くという考え方を理解してもらいたと思います。
この講義は若干の数学的素養を前提とする。その意味は、「情報数理」におけるような“形式的取扱いに慣れている”ということである。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果によるが、授業において若干演習的要素を取り入れるつもりである。

【テキスト】 特になし。担当者はS.C.Kleene「Introduction to Meta-mathematics」North-Holland Publ.を参考に講義する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75643	シミュレーション	選	2後～4	2	前期	後 藤 邦 夫
他の科目との関連	確率、プログラミング、オペレーションズ・リサーチ関係科目を履修していることが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 デジタル計算機を用いたシミュレーションについて講義する。内容はシミュレーションの分類、擬乱数の発生、プログラミング、結果の検証などであり、理論と例を並行して学習する。理論面では、数学、確率、統計的な考え方が必要となり、一方ではプログラミングも重要である。使用プログラミング言語はPascalが中心で、一部他の言語を用いる。講義は原則として普通教室で行ない、プログラミングは自習とする。時々ビデオを使用しシミュレーション結果を見せる。レポートを提出しないで試験を受けても単位は取れないので注意して欲しい。

【講義計画】 以下の予定で、講義ノートを中心に授業を進める。

1. オリエンテーション
Chapter 1.Introductionシミュレーションとは？
2. シミュレーションの分類
3. シミュレーション実験の手順、簡単な例（ビデオ）
4. Chapter 2.擬乱数の発生
合同法による一様擬乱数の発生
5. 色々な分布に従う乱数の発生と検定
6. Chapter 3.汎用言語によるシミュレーション1（ビデオ）
7. 汎用言語によるシミュレーション2（ビデオ）
8. 汎用言語によるシミュレーション3（ビデオ）
9. Chapter 4.シミュレーション結果の分析1
10. シミュレーション結果の分析1
11. Chapter 5.各種シミュレーション言語の紹介1
12. 各種シミュレーション言語の紹介2
13. まとめ
定期試験

【評価方法】 シミュレーションプログラミングのレポート（1回）——50点
後期定期試験（常識の範囲でなんでも持ち込み可）——50点
試験、成績が芳しくない場合は不定期にとる出席を考慮する。

【テキスト】 講義ノートを中心とする。
参考図書：関根智明他『シミュレーション』（日科技連、1976）
Paul Bratley et al, A guide to Simulation, Springer-Verlag, 1987.
その他or関係の本

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75647 75649	数理計画法Ⅰ・Ⅱ	選	2後～4	各2	集中	福 島 雅 夫
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 数理計画法はオペレーションズ・リサーチの中心的なテーマであり、経営や工学における意思決定の手法として、実際のさまざまな問題に適用されている。この講義では、数理計画法の代表的な手法である線形計画法の計算法、双対定理、感度分析について説明する。さらに、ネットワーク計画法、非線形計画法、整数計画法など、数理計画の重要な手法を説明する。
なお、この講義の内容は数学的になるので、情報管理学科以外の学生は登録にあたって注意すること。

【講義計画】 集中講義なので短期間にさまざまな方法や考え方を講義をすることになるが、受講者はその日に習ったことを復習すること。特に、講義中に示した具体例については、必ず自分の手で問題を解くなどして確実に方法を理解することが必要である。「数理計画法Ⅰ」、「数理計画法Ⅱ」とも最終

授業時に試験を実施する。

【評価方法】 評価は原則として試験の成績に基づいて評価する。なお、出席を考慮することもある。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75651	数理統計学A	選	2後~4	2	後期	木村美善
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 現在、よく用いられている統計的方法の多くは、数理統計学の理論によってその根拠を与えられている。この講義では「統計的方法Ⅰ・Ⅱ」の内容をさらに発展させ、数理統計学の理解を深めることを目的とする。取り上げる話題の中心は重回帰分析である。取り扱いが数学的になるので情報管理学科以外の学生は登録にあたって注意すること。

【講義計画】 通常の板書による講義とOHPを用いた講義を併用する。また、学習した統計的手法の応用として統計ソフト「S-PLUS」を用いた課題をやってもらおう。

【評価方法】 レポート30%、試験70%の割合で評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75657	多変量解析A	選	2後~4	2	前期	松田真一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 多変量解析は実用性の高い分野であるが、本格的な計算にはコンピュータを必要とする。したがって、本講義では計算法の紹介に留まり、理論的背景や実用上の注意に力点を置いて解説する。それによってコンピュータに使われるのではなくもコンピュータを使いこなす力を養うことを目的とする。

【講義計画】 1 項目をだいたい1回の講義で進める。
 1. 主成分分析法1 (2変量での主成分導出の考え方)
 2. 主成分分析法2 (主成分と寄与率)
 3. 主成分分析法3 (多変量の主成分分析)
 4. 主成分分析法4 (主成分数の決定と具体例)
 5. 判別分析法1 (1変量での判別分析の考え方)
 6. 判別分析法2 (2変量での判別分析、距離の概念)
 7. 判別分析法3 (多変量での判別分析)
 8. 因子分析1 (因子分析モデル、因子分析の手順)
 9. 因子分析2 (因子数の決定と因子負荷量の推定)
 10. 因子分析3 (因子軸の回転と因子の解釈)
 11. 主成分分析と因子分析の比較
 途中に適宜、小テストをはさむ。なお、主体的に学習を進めてもらうため講義内でいくつか課題を出し、レポートも提出してもらおう。

【評価方法】 定期試験8割、小テスト2割で評価する。なお、レポートは最大2割の追加評価に用いる。

【テキスト】 以下の本を教科書として使用する。
 田中 豊・脇本和昌著『多変量統計解析法』(現代数学社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75661	通信システム I	選	2後~4	2	後期	後 藤 邦 夫
他の科目との関連	通信システム II を履修するための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 近年一層重要性の高まっている通信ネットワークの原理を学ぶ。通信システム I では、概説として、通信媒体、アナログ伝送、デジタル伝送、回線交換、パケット交換、通信プロトコル（通信規約）の概念の学習と学内通信ネットワーク、インターネットの紹介を行う。普通教室での講義を中心とし、2 回程度の計算機実習を行う。
通信技術の概要のみを勉強したいものは、本科目だけ履修し、II を履修する必要はない。勉強をしないで試験を受けても単位は取れないので注意して欲しい。
講義ノートはオンラインで読めるので、登録前に読んでみて欲しい。

【講義計画】 以下の予定で、講義ノートを中心に授業を進める。
 1. Introduction 通信の基礎
 2. 伝送システム
 3. 電話システム
 4. デジタル通信ネットワーク
 5. 学内、学外通信ネットワーク（インターネット）の紹介と利用
 6. 実習 I
 7. 実習 II
 8. 性能評価の必要性和その手法
 9. 通信ネットワークアーキテクチャ
 通信プロトコルの標準化と OSI リファレンスモデル
 プロトコルの階層構造
 10. データリンクレイヤ
 11. ネットワークレイヤ
 12. 上位レイヤ、まとめ
 後期定期試験

【評価方法】 実習に関するレポート（簡単なもの 1 回）——30 点
 後期定期試験（常識の範囲でなんでも持ち込み可）——70 点
 試験、成績が芳しくない場合は不定期にとる出席を考慮する。

【テキスト】 講義ノート、配布資料を中心とする。
 URL: <http://www.nanzan-u.ac.jp/goto-docs/comm-sys/>（オンライン版）
 参考図書：
 宮原、尾家『コンピュータネットワーク』（森北出版、1992）¥2,060
 M. Schwartz, Telecommunication Networks, Addison-Wesley, 1987.
 『Unix マガジン』（アスキー、月刊）『インターネットワークマガジン』（インプレス）、
 Gopher、www による情報（無料）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75663	通信システム II	選	2後~4	2	前期	後 藤 邦 夫
他の科目との関連	「通信システム I」に続く、より専門性の高い内容			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 OSI プロトコルの詳細、学科の計算機で使用している Internet プロトコルを用いた通信プログラミング実習（3 回）、ローカルエリアネットワークについて学習し、さらに、B-ISDN（広帯域統合デジタル網）などの最新技術を紹介する。
 勉強をしないで試験を受けても単位は取れないので注意して欲しい。
 通信技術の概要のみを勉強したいものは、本科目を履修する必要はない。
 講義ノートはオンラインで読めるので、登録前に読んでみて欲しい。

【講義計画】 以下の予定で、講義ノートを中心に授業を進める。
 1. 広域ネットワークの世界
 2. Internet プロトコル

3. Unixネットワーク機能概説（実習）
4. 広域Internetの利用（実習）
5. Unixネットワークプログラミング入門（実習）
6. ローカルエリアネットワーク
ポーリングとランダムアクセス
7. CSMA/CD LAN
8. Token passing Ring
（最新技術の紹介と未来への展望）
9. 音声の符号化とディジタル回線交換
10. ISDNのサービス
11. ISDNの技術
12. Broadband ISDN
13. 夢のネットワーク社会、まとめ
後期定期試験

【評価方法】 実習に関するレポート（簡単なもの1回）——30点
後期定期試験（常識の範囲でなんでも持ち込み可）——70点
試験、成績が芳しくない場合は不定期にとる出席を考慮する。

【テキスト】 講義ノート、配布資料を中心とする。
URL: <http://www.nanzan-u.ac.jp/goto-docs/comm-sys/> （オンライン版）
参考図書
宮原、尾家『コンピュータネットワーク』（森北出版、1992）¥2,060
M.Schwartz, Telecommunication Networks, Addison-Wesley, 1987.
『Unixマガジン』（アスキー、月刊）『インターネットマガジン』（インプレス）、Gopher,
www による情報（無料）
W. R. Stevens, Unix Network Programming, Prentice Hall, 1990. （日本語版あり）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75665 75667	データ解析Ⅰ・Ⅱ	選	2後~4	各2	前期 後期	阪 本 雄 二
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 データ解析ⅠおよびⅡでは、統計的なデータ解析の手法についての解説と演習を、統計ソフトS-Plusを用いて行う。データ解析Ⅰでは回帰分析と残差分析を、データ解析Ⅱでは時系列解析をテーマにする予定である。各テーマに関する具体的なデータに対して、S-Plusを正しく使用し、その結果を統計的な視点で解析できることを目標とする。

【講義計画】 未定

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75675	プログラミング言語処理Ⅰ	選	2後~4	2	後期	真 野 芳 久
他の科目 との関連	「プログラミング言語処理Ⅱ」を履修する場合、事前にこの科目を履修しておくことが強く望まれる。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 人の書いたソースプログラムを計算機上で実行できる形に変換したり実行環境を提供する計算機プログラムを言語処理系と呼ぶ。
ここでは、ソースプログラムを機械語あるいはそれに近いものに変換するコンパイラの構造とその基礎理論を理解することを主なテーマとする。

【講義計画】 以下の順序で講義を進める。

- ・言語処理系の役割とその処理内容
- ・プログラミング言語の定義を記述する方法（正規表現、文脈自由文法、BNF）
- ・字句解析

- ・構文解析（再帰下降型，L L(1)，L R(1)）
- ・記号表
- ・中間表現
- ・コード生成、最適化

【評価方法】 レポート課題と定期試験とによって評価する。レポート課題では主に、やや複雑な計算問題と計算機を使った実験に関するもの、定期試験では言語処理に関する基本知識に関するものとする。

【テキスト】 疋田、石畑『コンパイラの理論と実現』（共立出版、1988）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75679 75681	情報通信科学論A・B	選	2後~4	各2	前期 後期	野呂昌満 後藤邦夫 他
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 A：ソフトウェア工学 B：システムインテグレーションとマルチメディア通信

【講義内容】 この情報通信科学論A・Bでは、情報通信の分野でご活躍されている方々を学外から講師に招き、最新技術の動向、ビジネスの展開などについて、お話し頂きます。
Aでは、ソフトウェア工学を応用するという観点から講読する。
Bでは、メインフレーム、ワークステーション、パーソナルコンピュータなど様々な機種、ペンターの計算機などをネットワークで接続し、一つのシステムに組み上げるという、いわゆるシステムインテグレーションと、現在、新聞やテレビで毎日のように取り上げられているマルチメディア通信の本質、ビジネスとしての今後の展開などについて、お話し頂きます。
なおAとBの単位は別であり、どちらか一方のみを履修することも出来る。
1995年度の情報通信科学論Bの講義資料の一部は、URL:<http://www.nanzan-u.ac.jp/goto-docs/JTB/>で読める。

【講義計画】 隔週で2コマ続けて1つのテーマについて講義する。各講師の講義の概要は、最初の時間にお知らせします。

- A：1. ソフト工学概論——野呂昌満
2 回目以降順序未定
2. 開発支援プロセス——伊藤昌夫（ニルソフト）
3. 開発環境——熊谷 章（PFU）
4. オブジェクト指向——酒匂 寛（SRA）
5. 品質保証——大場 充（広島大）
6. マルチメディア——中小路久美代（コロラド大）
7. Formal method ——佐原 伸（SRA）
B：1. オリエンテーション——後藤邦夫
2. システムインテグレーションとは——鈴木常彦
（〔株〕コンピュータ・テクノロジー・インテグレータ）
3. インターネットとマルチメディア——松尾啓志（名古屋工業大学）
4. マルチメディア通信の現状と将来——清水和美（NTT東海支社）
5. ケーブルテレビジョンとマルチメディア——講師未定
6. マスコミュニケーションとマルチメディア——大澤憲二（中日新聞）

【評価方法】 毎回出席が原則。各講師が担当した講義に関し、簡単な1,500字程度のレポートを課す。提出は電子メールで行なう。締切りはそれぞれ2週間後である。それらのレポートの評価を総合して成績をつける。

【テキスト】 各講師が配布するプリント等。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75683	情報倫理	選	2後~4	2	前期	後藤邦夫 野呂昌満
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 情報社会には、光と影がある。ネットワーク化が進むにつれ、エチケット違反、不正使用、犯罪が簡単かつ、広域に渡るようになってきた。それらの諸問題は、日常生活におけるものと同様に、法や技術だけでは解決できない人間の基本的問題に根ざすものである。それらの問題の解決は、人間ひとりひとりの倫理感を高めることによってのみ図れるものである。したがって、情報倫理教育が重要となる。

本講義は、2年連続して開講されなかったが、その重要性から、学科専任教員2名で担当することとした。身近な例に即し、問題を認識し、倫理の重要性を各自が考える講義とした。

【講義計画】 以下の予定で、講義ノートを中心に授業を進める。

1－2. 情報社会の特性と問題の所在（野呂）

3－4. 情報セキュリティ（後藤）

5－6. 個人情報（後藤）

7－8. 情報操作（野呂）

9－10. 知的所有権（野呂）

11－12. コンピュータ犯罪（後藤）

定期試験

【評価方法】 レポート2回（後藤、野呂から一回ずつ課題を出す）

【テキスト】 『情報倫理概論』（〔社〕私立大学情報教育協会、1,000円程度、購入すること）
その他資料を配布する。